

内側の周溝は幅 15 cm、深さ 5～8 cm、壁際の周溝は幅 20 cm、深さ 10 cm である。今回の調査では壁際に巡る周溝が検出された。地山ローム層の確認面からの深さは約 55 cm、床面からの深さ 10～25 cm である。

② 139 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南西隅に位置し、大部分は調査区外に隣接する第 75 地点に延びる。4 号住居跡、213 号住居跡と重複する。新旧関係は 4 号住居跡→139 号住居跡→213 号住居跡の順に新しい。

本住居跡は、第 75 地点の調査で炉 2 基、ピット 9 本が検出されている。今回の調査では新たに炉 1 基(炉 3)を検出した。ピット 12 は本住居に伴うものか、213 号住居に伴うものか、不明である。埋嚢と周溝は確認されていない。

本住居跡の時期は、加曾利 E II～III 期である。調査率は約 90% である。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈するとみられる。規模は、長軸推定(600) cm、短軸推定(550) cm、深さ約 40 cm である。

【炉】炉は住居跡中央部に石囲炉 1 基(炉 1)と本来石囲炉であったとみられる炉 2 がある。今回、新たに北側で炉 3 を検出した。213 号住居跡の埋嚢との位置関係から、本住居跡に伴う炉と考える。

炉 1 は石囲炉である。平面の長軸 72 cm、短軸 64 cm、深さ 11 cm である。

炉 2 は本来は石囲炉であったとみられるが、石は出土していない。掘方の長軸 102 cm、短軸(82) cm、深さ 25.5 cm である。

炉 3 の規模は、掘方の長軸(90) cm、短軸 85 cm、深さ 12.2 cm である。

【柱穴】柱穴は第 75 地点で 9 本(P1～9) 検出した。今回検出した P10～P12 のうち、P10・11 は 213 号住居跡に伴うもので、P12 はいずれの住居跡に伴うか不明である。各ピットの詳細は第 33 表を参照。

【遺物出土状況】今回出土した遺物は、ほぼ全てが、重複する 213 号住居跡に伴うものと考えられる。

【出土遺物】(第 68 図 1～19) 1 は有孔鏝付土器で口縁部と鏝の一部を残存し、内外面に赤色塗彩を施す。2 は口縁部と胴部、底部の破片で接合しない。口縁部は楕円形区画、胴部は沈線の懸垂文間を幅広く磨消す、地文 Lr 縄文。3・4 は 2 と同じだが、楕円形の区画間に渦巻文を配する。5 は 2 本組隆帯の区画内に Lr 縄文を施す。6・7 は沈線で渦巻文を配する。

8 は押圧のある高い隆帯に、地文複節縄文を施す。9 は地文縄文、10 は地文条線で、口縁部に 2 列の円形刺突文を施す。

11～14・16 は地文条線に、2～4 本組の波状沈線文を施す。15 は地文縄文に波状沈線文と懸垂文を、17 は地文 Lr 縄文に 2 本組沈線の懸垂文間を磨消す。

18・19 の石器は第 34 表を参照。2～4・17 は加曾利 E II～III 式、6・7 は加曾利 E I 式、9～16 は連弧文式である。18・19 については、第 34 表を参照。

③ 213 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南西隅に位置し、約 1/2 は調査区外に延びる。4 号住居跡、139 号住居跡と重複する。新旧関係は 4 号住居跡→139 号住居跡→213 号住居跡の順に新しい。本住居跡は、第 12 地点及び第 75 地点の調査では確認されていない。

本住居跡の時期は、加曾利 III 期である。調査率は約 90% である。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈するとみられる。検出部の規模は、長軸 460 cm 以上、短軸 300 cm 以上、深さ約 32 cm である。

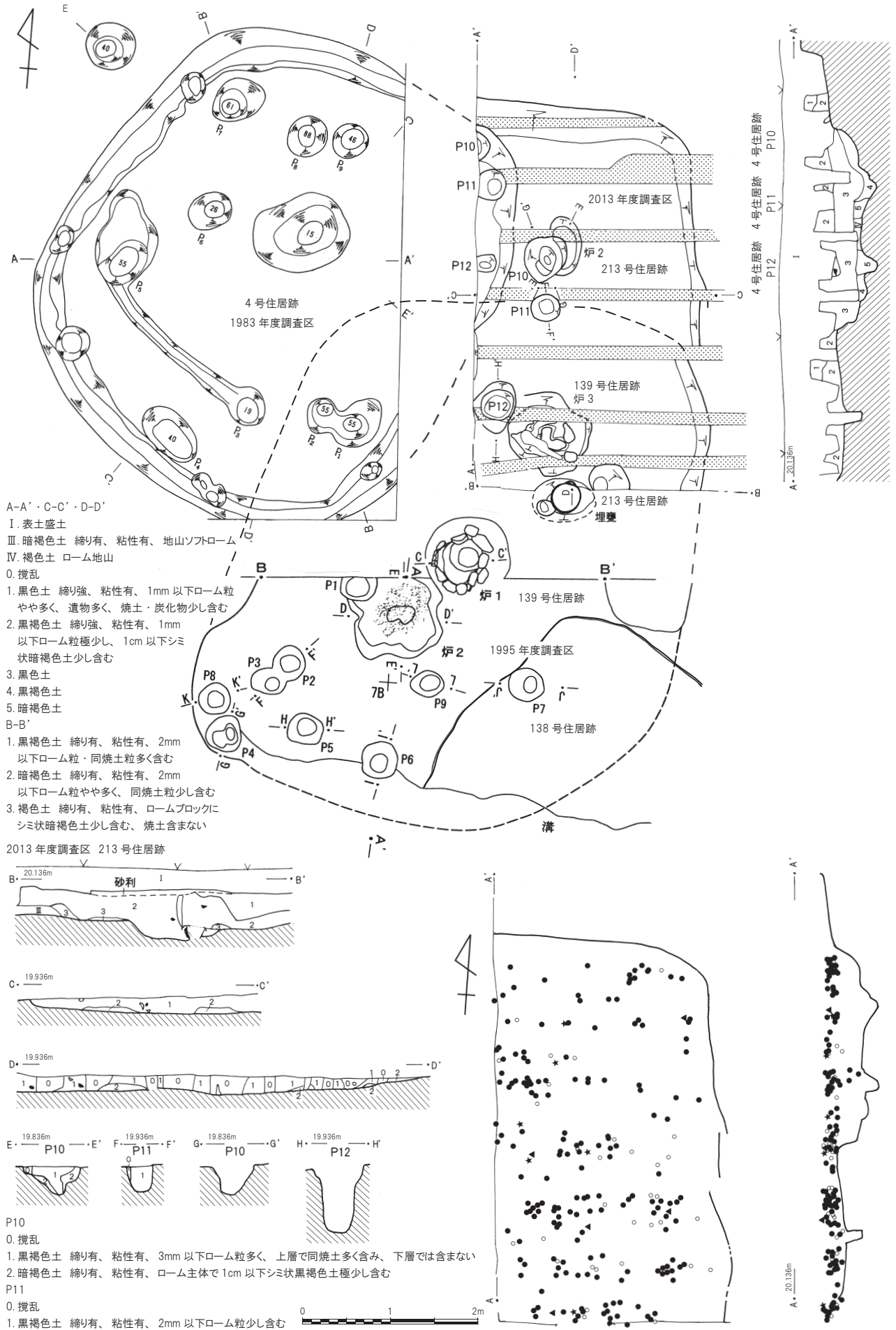
【炉】炉 1 は住居跡の北側に位置する地床炉である。

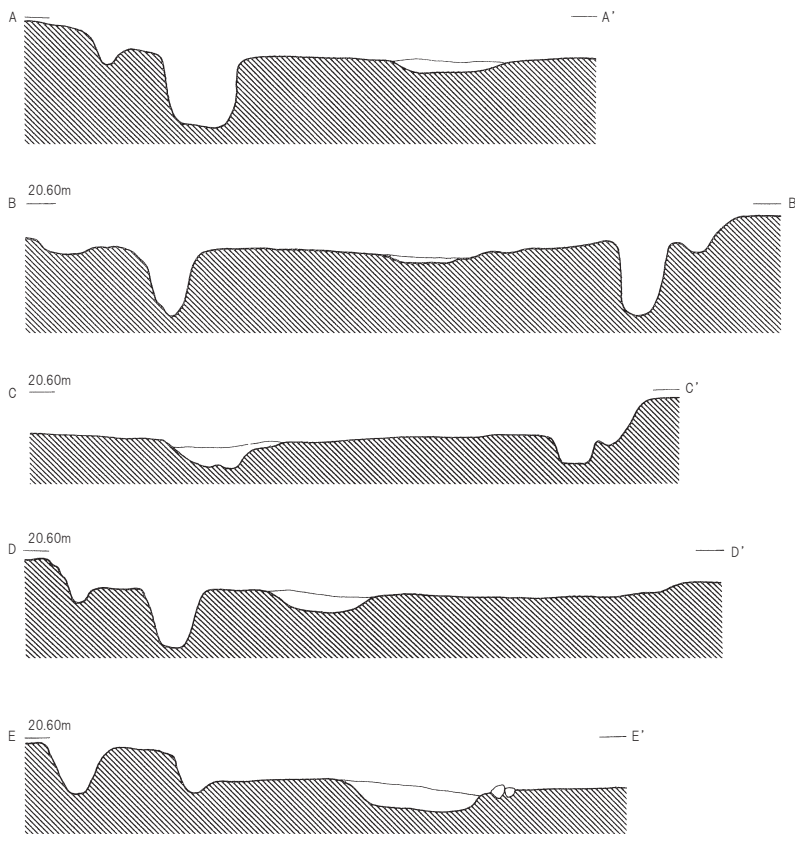
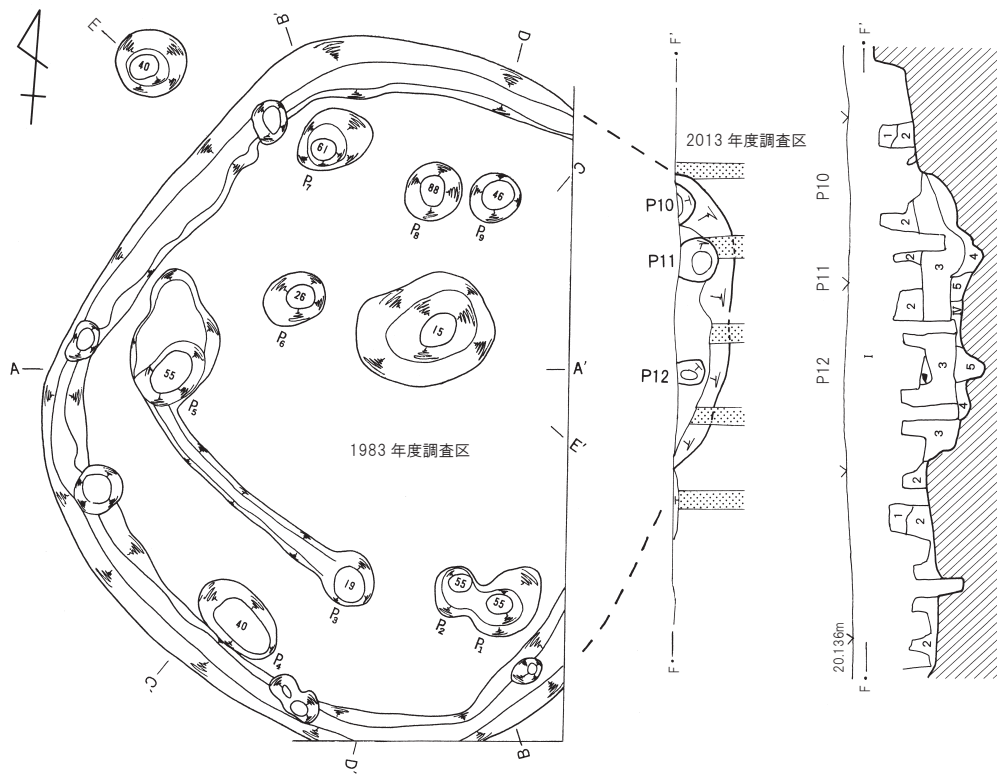
平面形態は楕円形で長軸 65 cm、短軸(35) cm、底径は 49×(26) cm、深さ 12 cm である。

【柱穴】柱穴は 3 本(P10～12) 検出した。今回検出した P10～P12 のうち、P10・11 は 213 号住居跡に伴うもので、P12 は 139 号住居跡か 213 号住居跡に伴うものか不明である。各ピットの詳細は第 33 表を参照。

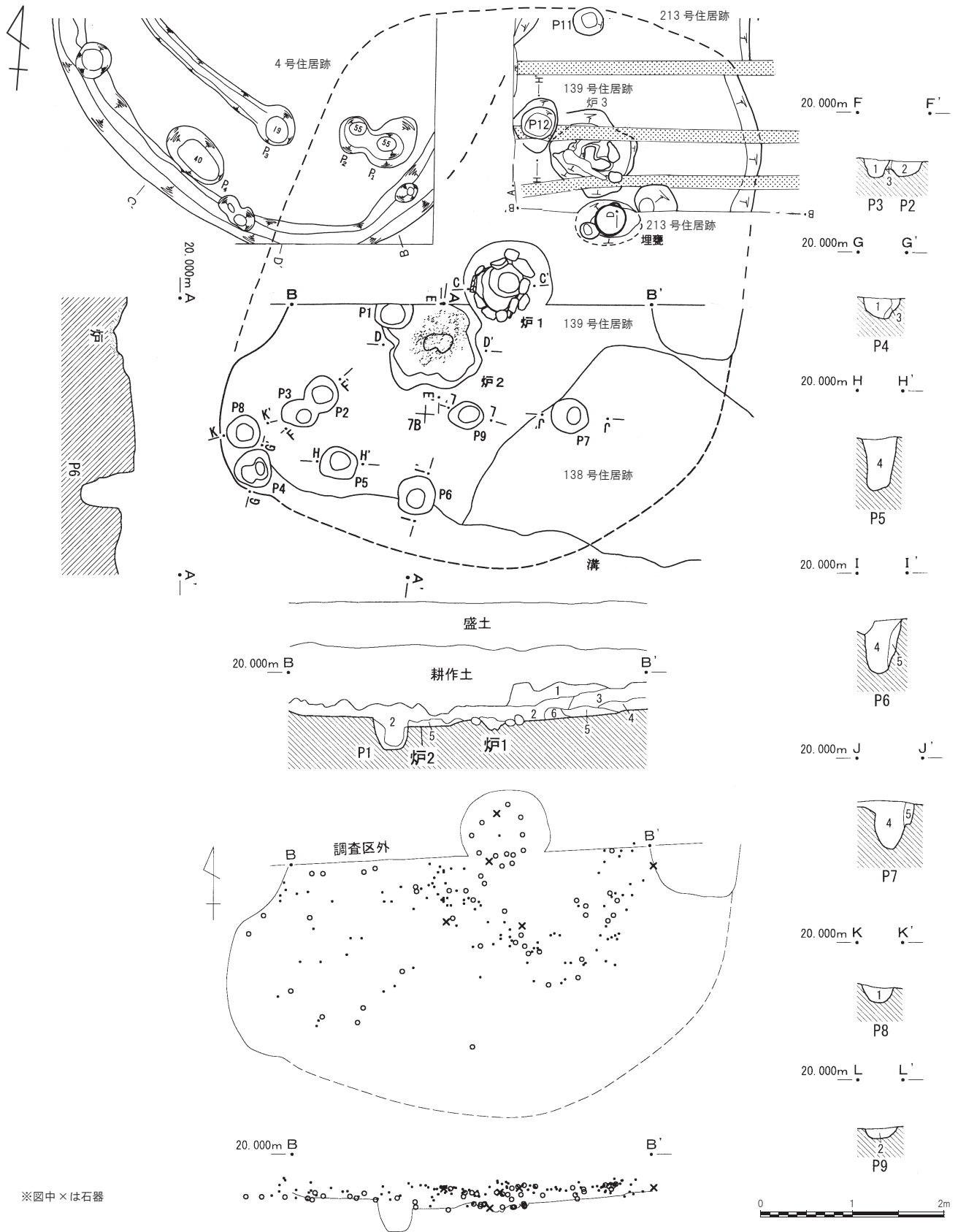
【遺物出土状況】埋嚢の他は、床面から覆土層にかけて出土する。

【出土遺物】(第 69 図 1～15) 1 は埋嚢で、底部を欠損、口縁部も耕作で欠損する。胴部最大径は 35.8 cm である。地文 Lr 縄文に胴部隆起帯文を施す。楕円形等の区画文から渦巻文を経て 2 本組隆帯の懸垂文を配す。2 は隆帯で渦巻文と区画を配し、内に沈線を施す。3～5 は口縁部に隆帯の区画文を配し Rl 縄文を施し、頸部無文帯を有す。6 は地文 Rl 撚糸文。7 は頸部無文帯と胴部は隆帯の区画内に地文 Rl 縄文。8 は口縁部に隆帯の渦巻文と楕円形区画を配し地文 Rl 縄文、頸部以下は 3 本組沈線の懸垂文を施す。9・10 は口縁部に沈線の渦巻文と楕円形区画を配し地文 Lr 縄文、頸部以下は沈線で蕨手状文と「∩・U」字状文を施す。11 は地文 Rl 複節縄文に 2 本組沈線の





第64図 西ノ原遺跡第150地点4号住居跡 (1/60)



※図中×は石器

139号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm大のローム粒・焼土粒少量
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒・焼土粒多量、1mm大炭化物粒少量
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm大炭化物粒少量
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量、3層より色調は明るい
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒をシミ状に少量
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土と黒褐色土粒がほぼ同量、1mm大焼土粒極少量

ピット覆土

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒・焼土粒・炭化物少量、下層には1cm大ローム粒少量
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm大のローム粒・焼土粒少量、1cm大ローム粒をシミ状に少量
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ソフトローム土主体層
4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下のローム粒・焼土粒・炭化物粒多量
5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土粒をしみ状に多量

第65図 西ノ原遺跡第75地点139号住居跡・遺物出土状況 (1/60)

懸垂文間を磨消す。12は地文条線に沈線、15は地文R1縄文に底部網代痕有り。13は地文縄文に沈線、14は底部である。1・8～11は加曽利EⅡ新相、2～7は加曽利EⅠ、12は連弧文式、他は加曽利EⅠ～Ⅱ式。

④土坑

土坑1と土坑2は2012(平成24)年1月23日～2月16日の試掘調査で確認、検出したものである。土坑3は、今回新たに検出したものである。

【土坑1】平面形態は隅丸長方形で、規模は確認面径97×60cm、底径50×(23)cm、深さ22.9cmである。半截を行ったが、完掘はしていない。

【土坑2】平面形態は楕円形で、規模は確認面径125

×96cm、深さ32cmである。ゴボウの耕作痕以外は未検出である。

【土坑3】平面形態は楕円形で、規模は確認面径125×64cm、底径95×40cm、深さ22cmである。覆土層より土器片が出土している。

⑤ピット

【ピット7】平面形態は楕円形で、規模は確認面径100×58cm、底径34×29cm、深さ26cmである。

【ピット14】平面形態は円形で、規模は確認面径26cm、底径15×10cm、深さ30.7cmである。

⑥土坑・遺構外出土遺物(第70図16・17)

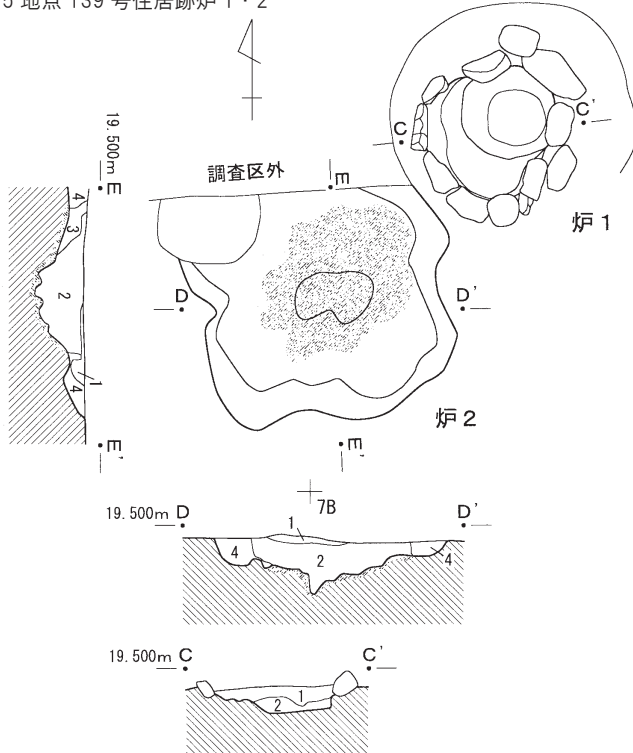
16・17は無文浅鉢の胴部と底部で丁寧な磨き調整を施す。

第33表 西ノ原遺跡第150地点4・139・213号住居跡ピット一覧表(単位cm)

住居	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
139号住居跡(1995年度調査区)	1	(楕円形)	40×(35)	25×(25)	27	
	2	(楕円形)	(40)×36	23×20	15	
	3	(楕円形)	40×(29)	16×15	19	
	4	不整形	41×39	14×8	22	縄文土器
	5	楕円形	40×33	21×20	56	縄文土器
	6	円形	43×42	20×18	57	
	7	円形	39×39	20×14	50	
	8	円形	36×35	18×18	16	
	9	楕円形	39×30	22×17	10	

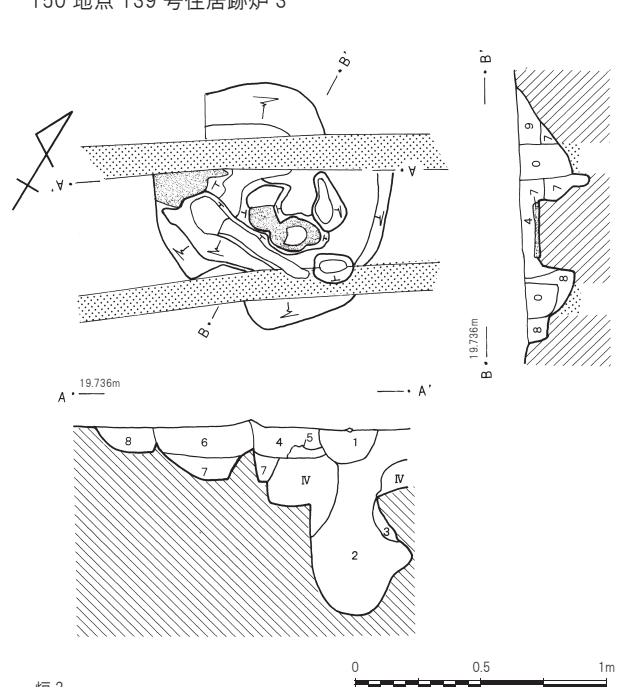
住居	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
4号住居跡(2013年度調査区)	10	楕円形	53×47	10×7	36.1	
	11	円形	33×30	17×15	33.5	旧P2
	12	不明	57×47	25×25	74.5	
213号住居跡(2013年度調査区)	10	不明	40×(14)	19×(5)	22.0	
	11	不明	35×(30)	9×5	27.5	
	12	不明	(22)×20	14×7	19.0	

75地点139号住居跡炉1・2



- 炉1
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少量、焼土粒多量
 2. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土粒多量
- 炉2
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm大のローム粒・焼土粒極少量
 2. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、赤褐色土焼土粒をシミ状に多量、5mm以下焼土粒多量、1mm大炭化物粒少量
 3. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、焼土粒をシミ状に少量、1cm大のローム塊・焼土塊多量
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土粒と黒褐色土粒が同量

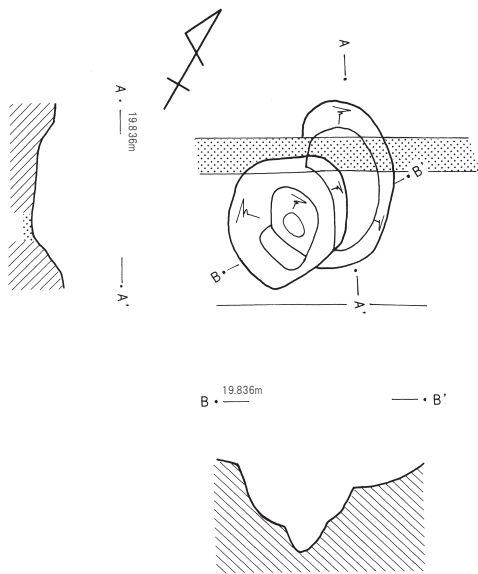
150地点139号住居跡炉3



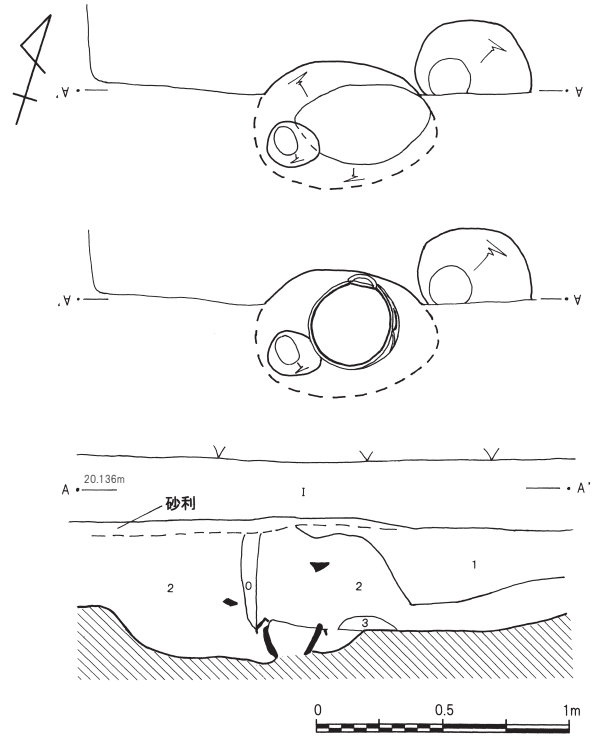
- 炉3
- IV. 褐色土 ローム地山
0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒・同焼土粒多く含む
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、同焼土粒少し含む
 3. 褐色土 締り有、粘性有、ロームブロックにシミ状暗褐色土少し含む、焼土含まない
 4. 赤褐色土 5mm以下焼土多く、2cm以下シミ状黒褐色土と暗褐色土を少し含む
 5. 赤色土 焼土ブロック、焼土塊
 6. 黒褐色土 1mm以下ローム粒・焼土粒多く含む
 7. 暗褐色土 ローム質暗褐色土主体にシミ状に黒褐色土を少し含む
 8. 黒褐色土 暗褐色土と黒褐色土を斑状に含み、1mm以下シミ状ローム極少し含む
 9. 黒褐色土 8層主体に1mm以下ローム・焼土粒少し含む

第66図 西ノ原遺跡第75・150地点139号住居跡炉(1/30)

213号住居跡 炉



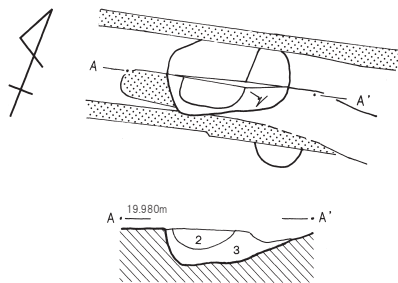
213号住居跡 埋甕



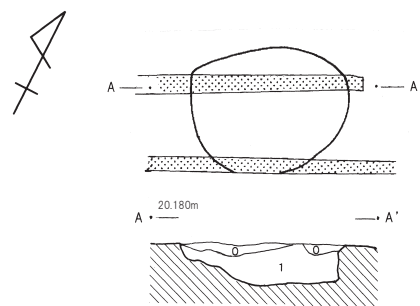
埋甕

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒・同焼土粒多く含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、同焼土粒少し含む
- 3. 褐色土 締り有、粘性有、ロームブロックにシミ状暗褐色土少し含む、焼土含まない

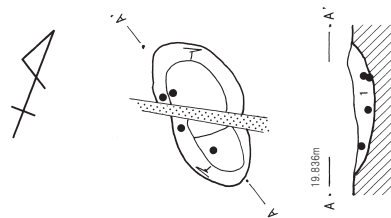
土坑 1



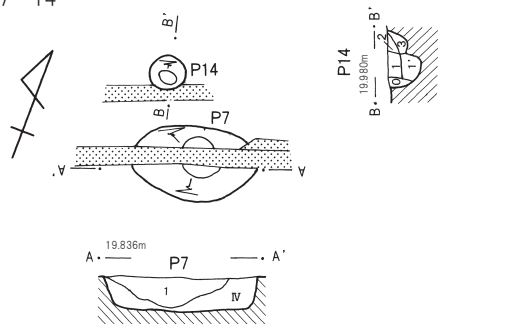
土坑 2



土坑 3



P7・14



土坑 1

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒極少し含む

土坑 2

0. 攪乱

- 1. 黄色味有る黒褐色土 締り強、粘性有、うっすらシミ状にローム土含む

土坑 3

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

P7

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒極少し含む

P14

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む

- 1'. 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に1cm以下ロームブロック少し含む

- 2. 黄色味有る黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒。焼土少し含む

- 3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄色味有る黒褐色土主体に斑状にローム土を多く含む

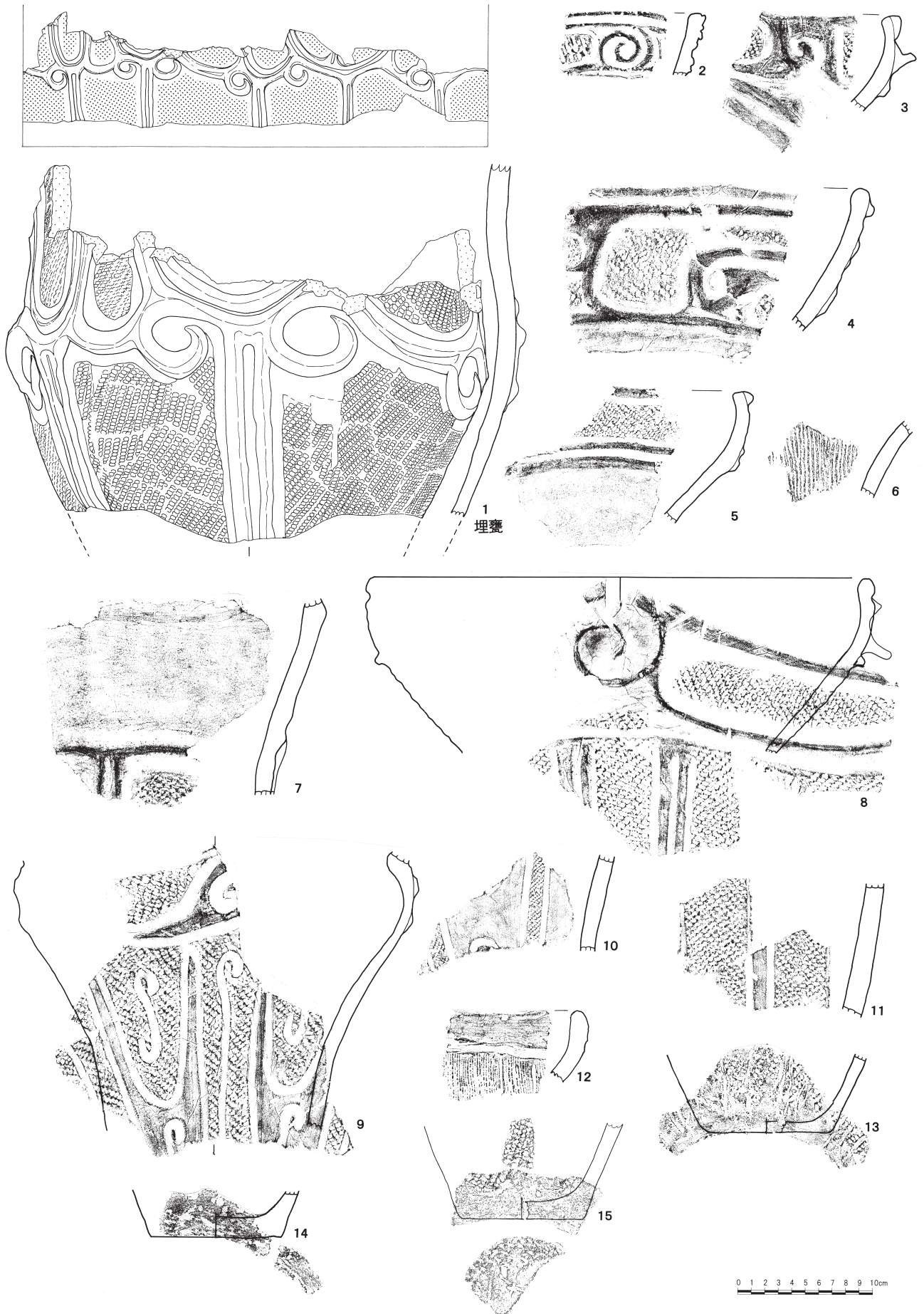


第 67 図 西ノ原遺跡第 150 地点 213 号住居跡炉・埋甕 (1/30)、土坑・ピット (1/60)



第68図 西ノ原遺跡第75地点139号住居跡出土遺物 (1/4)

213 号住居跡

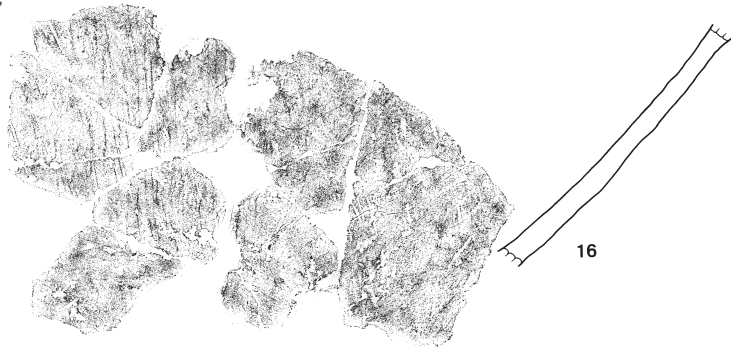


第 69 図 西ノ原遺跡第 150 地点 213 号住居跡出土遺物 (1/4)

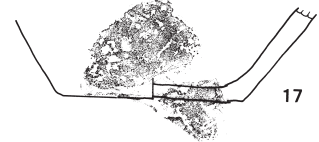
第34表 西ノ原遺跡第150地点出土石器観察表 (単位 cm・g)

図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別 / 器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材 / 推定生産地	推定年代	残存 / 備考
第68図18	139号住居跡	磨製石斧	10.5	4.7	2.6	232.2	緑色凝灰岩	縄文時代	完形
第68図19	139号住居跡	石皿・凹石	21.1	12.2	6.5	2098.9	閃緑岩	縄文時代	一部残存
第70図18	139号住居跡、一括	石鏃	2.8	1.6	0.25	0.96	珪質頁岩	縄文時代	完形
第70図19	139号住居跡、No.173	打製石斧	9.4	6.0	1.8	131.11	ホルンフェルス	縄文時代	完形 / 偏刃
第70図20	139号住居跡、No.27	打製石斧	(7.2)	(4.3)	(2.6)	(108.59)	中粒砂岩	縄文時代	刃部欠損
第70図21	139号住居跡、No.169	打製石斧	(9.8)	(4.3)	2.1	(106.61)	頁岩	縄文時代	刃部欠損
第70図22	139号住居跡、No.40	打製石斧	(9.3)	3.4	2.8	(118.4)	頁岩	縄文時代	刃部欠損
第70図23	139号住居跡、一括	打製石斧	(11.3)	5.5	(1.1)	(88.71)	粗粒砂岩か	縄文時代	基部欠損
第70図24	ピット7	打製石斧	(10.3)	4.5	1.8	(93.07)	頁岩	縄文時代	刃部欠損
第70図25	遺構外	打製石斧	(5.3)	(3.7)	(1.9)	(55.19)	緑泥片岩	縄文時代	下部欠損
第70図26	139号住居跡、No.145	敲き石	(7.3)	5.2	3.1	(184.69)	緑色岩	縄文時代	約1/2 残存
第70図27	139号住居跡、No.202	凹石	(10.2)	(7.2)	(4.8)	(493.56)	安山岩	縄文時代	約1/4 残存
第70図28	139号住居跡、No.222	石製品 / 垂飾	9.6	6.6	1.9	84.29	多孔質安山岩	縄文時代	完形

土坑



遺構外



第70図 西ノ原遺跡第150地点出土遺物 (1/4・2/3)

Ⅲ 西ノ原遺跡第 155 地点

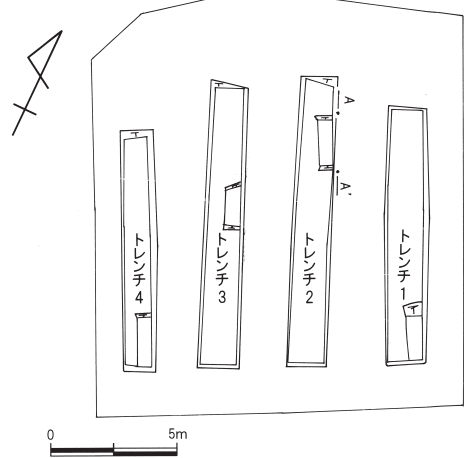
(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 10 月 15 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。

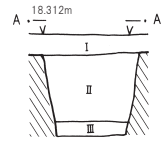
申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 10 月 21 日～22 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約 1～1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から 1.6～2.0 m まで盛土されており地山ローム層は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。出土遺物はな

第 155 地点

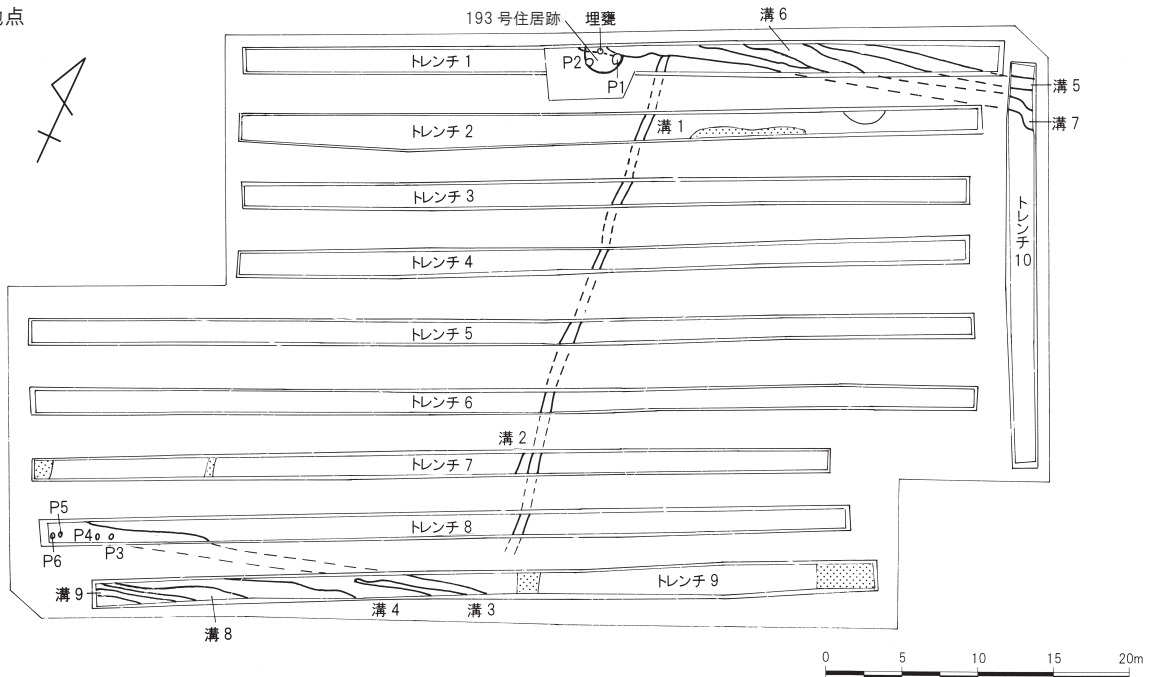


トレンチ 2



- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土黒色耕作土（盛土）
- II. 褐色土 締り有、粘性有、ローム主体に黒色土ブロック・ガラブロック 20cm 以下を含む盛土
- III. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土主体に 5cm 以下ロームブロックを多く含む盛土

第 156 地点



第 71 図 西ノ原遺跡第 155 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、第 156 地点遺構配置図 (1/500)

IV 西ノ原遺跡第156地点

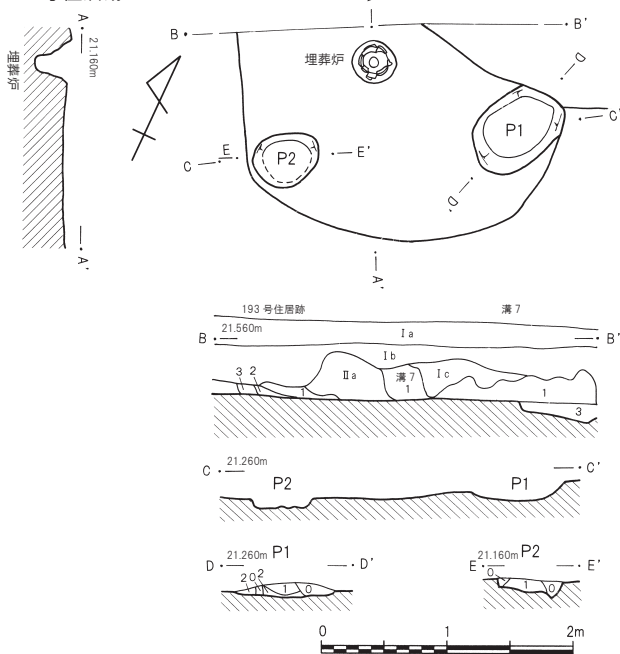
(1) 調査の概要

調査は店舗（工場併設）建設に伴うもので、原因者より2013年11月5日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年11月26日～12月9日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5～2mのトレンチ10本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から50～60mで地山ローム層を確認し

193号住居跡



た。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

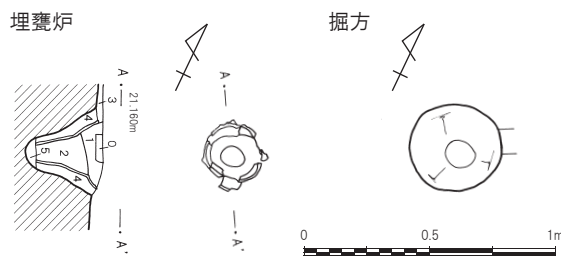
(2) 遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、縄文時代中期の住居跡1軒、溝9本である。

① 193号住居跡

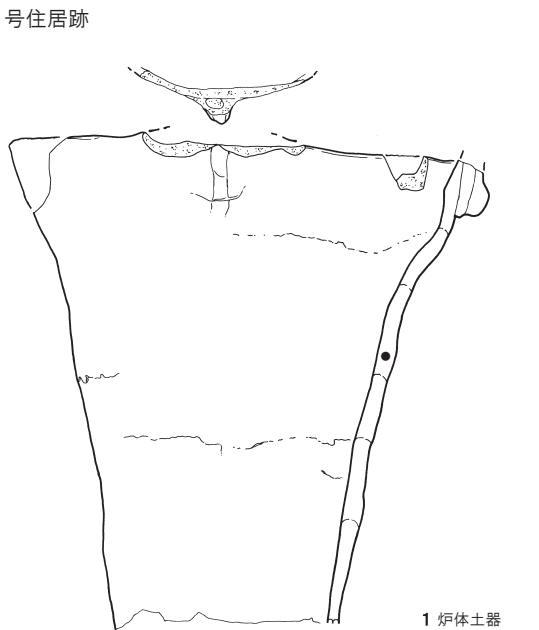
【位置・時期】 本住居跡は調査区の北端に位置し、一部は調査区外に延びる。本住居跡の時期は、阿玉台I b～II期。調査率は約90%である。

【形状・規模】 平面形態は円形を呈するとみられる。掘削のため、確認面がほぼ床面であるため、住居跡

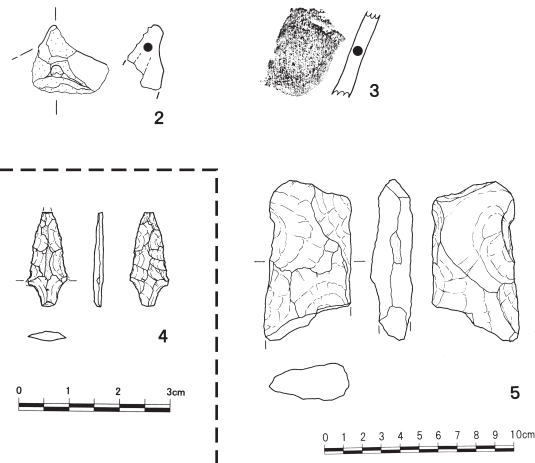


- I a. 暗黄灰色土 締りやや弱、粘性やや弱、近年の耕作土、3mm以下ローム粒少し含む
- I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、旧耕作土、5mm以下ローム粒やや多く含む
- I c. 黒褐色土 締り強、粘性有、I bより暗め、2cmロームブロック・5mm以下焼土・炭化物少し含む
- II a. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1～5mmローム粒やや多く含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に1～5mmローム粒やや多く、2mm以下黒色粒少し含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黄灰色土を多く、2mm以下黒色土粒少し含む
- P1
- 0. 攪乱
- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黄灰色土を含む
- P2
- 0. 攪乱
- 1. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム粒・2mm以下黒灰色土粒少し含む
- 埋葬
- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm以下ローム粒多く、1mm焼土・炭化物少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・炭化物少し含む、1層より黒色味強い
- 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、ローム土主体でシミ状に黄灰色土を多く含む、2mm以下黒色土粒少し含む
- 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む

193号住居跡

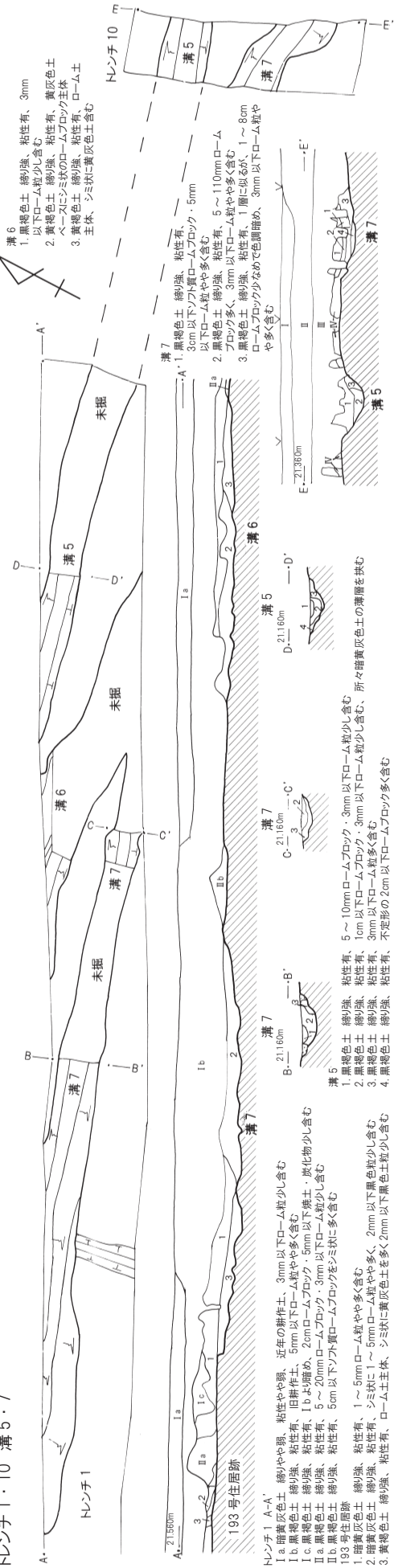


遺構外



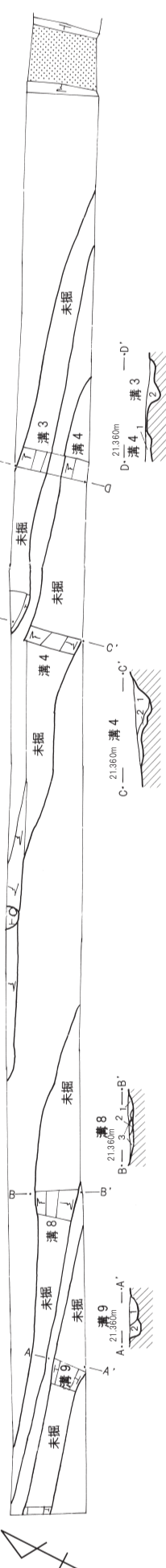
第72図 西ノ原遺跡第156地点193号住居跡 (1/60)、埋葬 (1/30)、出土遺物 (1/4・2/3)

トレンチ1・10 溝5・7

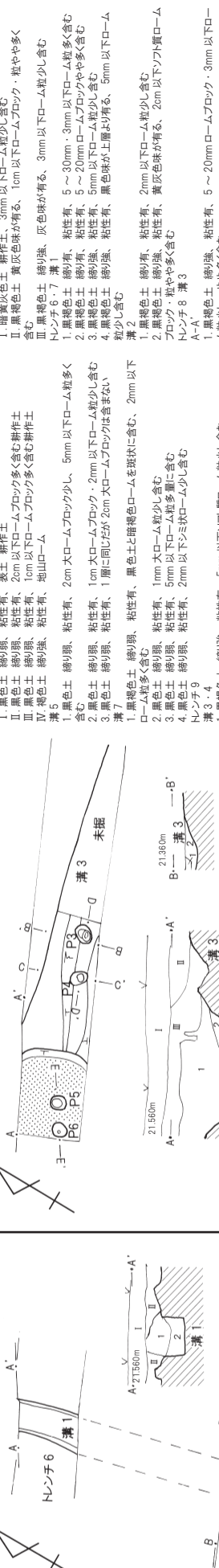


トレンチ1 A-A'
 I a 暗黄灰色土 締り強、粘性やや弱、近年の耕作土、3mm以下ローム粒少し含む
 I b 黒褐色土 締り強、粘性有、旧耕作土、5mm以下ローム粒やや多く含む
 I c 黒褐色土 締り強、粘性有、I bより強め、2cmロームブロック・5mm以下礫土・炭化物少し含む
 II a 黒褐色土 締り強、粘性有、5~20mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
 II b 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ソフ状質ロームブロックをシミ状に多く含む
 193号住居跡
 締り強、粘性有、1~5mmローム粒やや多く含む
 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に1~5mmローム粒やや多く、2mm以下黒色粒少し含む
 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に1~5mmローム粒やや多く、2mm以下黒色土粒少し含む
 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄灰色土を多く2mm以下黒色土粒少し含む

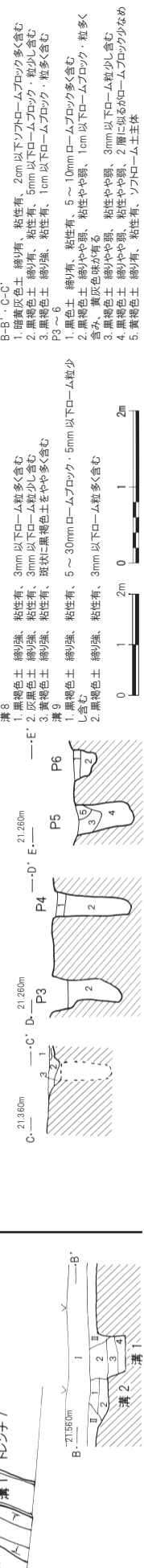
トレンチ9 溝3・4・8・9



トレンチ6・7 溝1・2



トレンチ8 溝3・ピット3~6



第73図 西ノ原遺跡第156地点ピット・溝 (1/120)、土層 (1/80)

の壁は確認されなかった。検出部の規模は、長軸 270 cm以上、短軸 173 cm以上、深さ約 12.4 cmである。

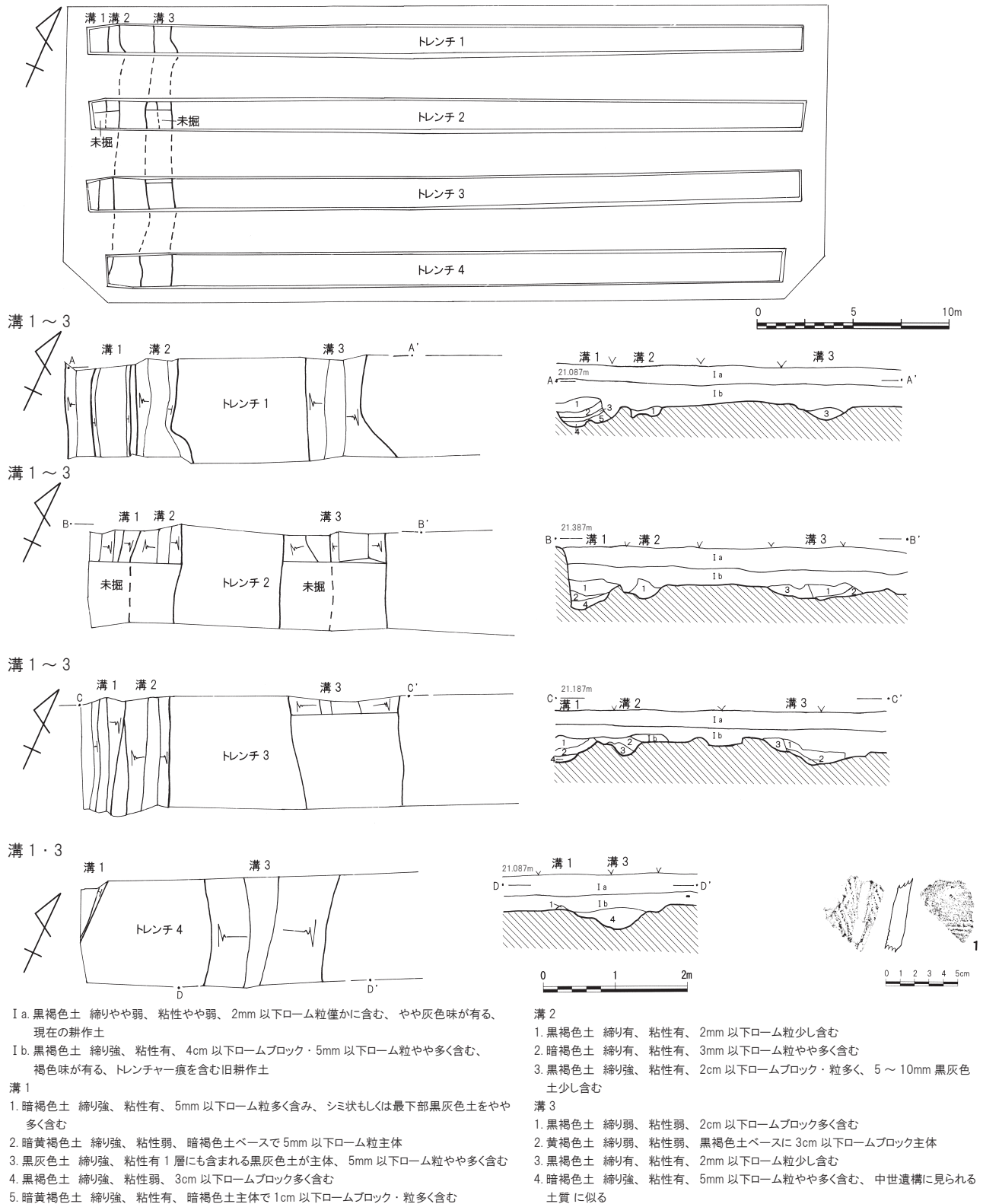
【炉】 炉は、炉内の中央部に底部を欠損する阿玉台式土器を正位に埋設する埋嚮炉である。炉の平面形態は円形で長軸 35 cm、短軸 34 cm、底径は 12 × 10 cm、深さ 28.1 cmである。

【柱穴】 柱穴は 2 本検出した。

ピット 1 の平面形態は楕円形である。規模は、確認面径 78 × 54 cm、底径 60 × 40 cm、深さ 12.4 cmである。

ピット 2 の平面形態は不整円形である。規模は、確認面径 50 × 43 cm、底径 35 cm、深さ 9.9 cmである。

【遺物出土状況】 炉体土器の他は、表土層から縄文土



第 74 図 西ノ原遺跡第 157 地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/80)、出土遺物 (1/4)

器片が僅かに出土したが、復元出来るものはない。

【193 号住居跡・遺構外出土遺物】(第 72 図 1～5)

1 は炉内埋設土器(炉体土器)である。胎土に多量の雲母を含み、粘土の積上げ痕は確認できるがヒダ状圧痕はみられず、無文である。口縁部は丸味をもって外反し、口唇部の内側には明瞭な稜がみられる。平口縁で 2 ケ所の小突起が残存し緩やかな波状を呈するが、小突起は本来 4 ケ所あったとみられる。突起部は粘土棒を芯に粘土帯を貼り付ける。2～5 は遺構外出土遺物である。2 は 1 と同一個体とみられる口縁部突起で、粘土棒を芯に粘土帯を貼り付ける。3 も胎土に雲母を含む阿玉台式土器であるが、1・2 の同一個体かどうかは不明である。4 は頁岩製の有舌尖頭器か?。先端部を欠損し、重さ 2.07 g。5 はホルンフェルス製の打製石斧で先端部を欠損し、重さ 101.0 g。

②ピット

ピットは 4 基検出した。覆土層の観察から中近世期と考えられる。ピット 3 の平面形態は円形、規模は確認面径 40 × 30 cm、底径 14 × 6 cm、深さ 75 cm。ピット 4 の平面形態は円形、規模は確認面径 39 × 26 cm、底径 14 cm、深さ 79.2 cm。ピット 5 の平面形態は円形、規模は確認面径 30 × 29 cm、底径 20 × 18 cm、深さ 58.9 cm。ピット 6 の平面形態は円形、規模は確認面径 30 × 25 cm、底径 5 cm、深さ 22.2 cm。

③溝

本調査で検出した溝は 9 本である。溝 1 は土地境の溝か。溝 3～9 は複数本が並行しており、畑道等の旧道の可能性も考えられる。溝は全て、覆土層の観察から近世以降とみられる。詳細は第 35 表参照。

V 西ノ原遺跡第 157 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2013 年 12 月 3 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 12 月 9 日～17 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から 40～50 m で地山ローム層を確認した。

調査区の西端で西側道路に並行する溝 3 本を確認した。覆土層の観察から近世以降の土地境等の溝と考えられる。詳細は第 35 表参照。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。遺物は表面採取で縄文土器片を採取した。第 74 図の 1 は無節の縄文を地文に沈線を施す加曽利 E 式である。旧石器時代の確認調査は行っていない。

VI 西ノ原遺跡第 158 地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 11 月 29 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部西寄りに位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014 年 1 月 7 日～14 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 6 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から 20～30 m で地山ローム層を確認した。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡 13 軒と土坑 3 基のプランを確認したため、原因者と再協議を行った。

遺跡の表土層が約 30 cm と浅く、設計変更も出来ない事から、開発計画の見直しとなった。隣接地も土地所有者が同じため、開発計画を変更して改めて関係書類等が提出された。新開発計画に基づく試掘調査等については、西ノ原遺跡第 159 地点のとおりである。

(2) 遺構と遺物

縄文時代の住居跡と土坑はプランのみを確認し、その際出土した遺物を第 76 図に掲載した。

第 35 表 西ノ原遺跡第 156・157 地点溝一覧表 (単位 cm)

	No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
第 156 地点	溝 1	凵字形	60～75	50～60	36.8	
	溝 2	浅い U 字形	66～82	28～36	22.4	
	溝 3	浅い V 字形	57～59	20～22	11.5	
	溝 4	浅い V 字形	50～103	30～35	7	
	溝 5	浅い V 字形	63～93	27～45	15.8	
	溝 6	不明	230～390	38～38	(30)	

	No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
第 156 地点	溝 7	浅い V 字形	55～120	22～52	29	
	溝 8	浅い U 字形	69～82	20～25	(7)	
	溝 9	浅い U 字形	53～62	33～38	(15)	
第 157 地点	溝 1	逆台形	35～98	10～43	30.4	
	溝 2	浅い U 字形	45～75	17～48	18.2	
	溝 3	浅い V 字形	81～184	10～50	34.7	

【住居跡】住居跡は第159地点から続く204号住居跡を含め、13軒以上が存在するとみられる。検出は行っておらず、プランの規模を第32表に掲載する。

【土坑】土坑1は不整形を呈し、規模は(270×101)cm。土坑2は半円形を呈し、規模は(120×40)cm。土坑3は半円形を呈し、規模は(160×60)cm。

【出土遺物】(第77図1～35)1は横位の平行沈線に地文R1縄文、内面は黒色で丁寧に磨く。2は刻目隆帯下に刺突文と沈線文を施す。3は低い隆帯に刻目を施し、間に蛇行する紐状隆帯を貼付。4は横位隆帯に細い隆帯を格子状に貼付、隆帯の懸垂文で区画を配し沈線文を施す。5は蛇行する紐状隆帯を貼付。6・14は地文Lr撚糸文に隆帯(6は2本組)の懸垂文を貼付。7は横位隆帯、8は横位隆帯に沈線、9は地文Lr縄文に沈線文を施す。10は口唇部の隆帯脇に1列の角押文を施し、区画内に複列角押文を波状に施文。11は有節沈線、10・11は胎土に金雲母を含む。12は内外面に浅い沈線文を施す。13は平行する隆帯間に沈線文と蛇行隆帯を貼付。15は口縁部の隆帯区画内に地文Lr撚糸文を施し頸部無文帯を有するが、16は撚糸文は確認出来ない。17は半截竹管状工具の刺突と沈線文。18・19・24・29は無文、29は口縁部で内外面に丁寧な磨きを施す。20は細かい沈線文、21は地文Lr撚糸文に蛇行隆帯の懸垂文を貼付。22は隆帯脇に押引文を施し胎土に金雲母を含む。23は横位沈線で無文口縁部と地文R1縄文の頸部以下を区画。25は地文R1縄文に隆帯で区画文を施す。26は口縁部の把手、27は横位隆帯に地文Lr縄文、28は横位の半隆帯と区画内に沈線文を施す。30は浅鉢形土器の口縁部で平行沈線文を施す。28と30は胎土が類似するが、同一個体かは不明。31～35は石器で第36表を参照。1・2・4・5・17・28・30は勝坂Ⅲ式。17・22・23は勝坂式。3・6～9・12～16・25～27は加曾利EⅠ。10・11・22は阿玉台Ⅰb～Ⅲ式。それ以外も勝坂～加曾利E式。

Ⅶ 西ノ原遺跡第159地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、「Ⅵ 西ノ原遺跡第158地点調査の概要」で述べたとおりであるが、第158地点での開発計画が変更され、改めて原因者より2014年1月27日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請者と協議の結果、遺構の存在を改めて確認するため、2014年1月30日～2月10日に試掘調査を実施し、縄文時代の住居跡や炉跡等を確認した。遺構確認面までの深さは約30mで、遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

試掘調査及び本調査の成果については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第17集『市内遺跡群16』(2016.3)で報告済みのため、本書では割愛する。

Ⅷ 西ノ原遺跡第168地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年10月4日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部北寄りに位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月21日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から15～20mで地山ローム層を確認した。

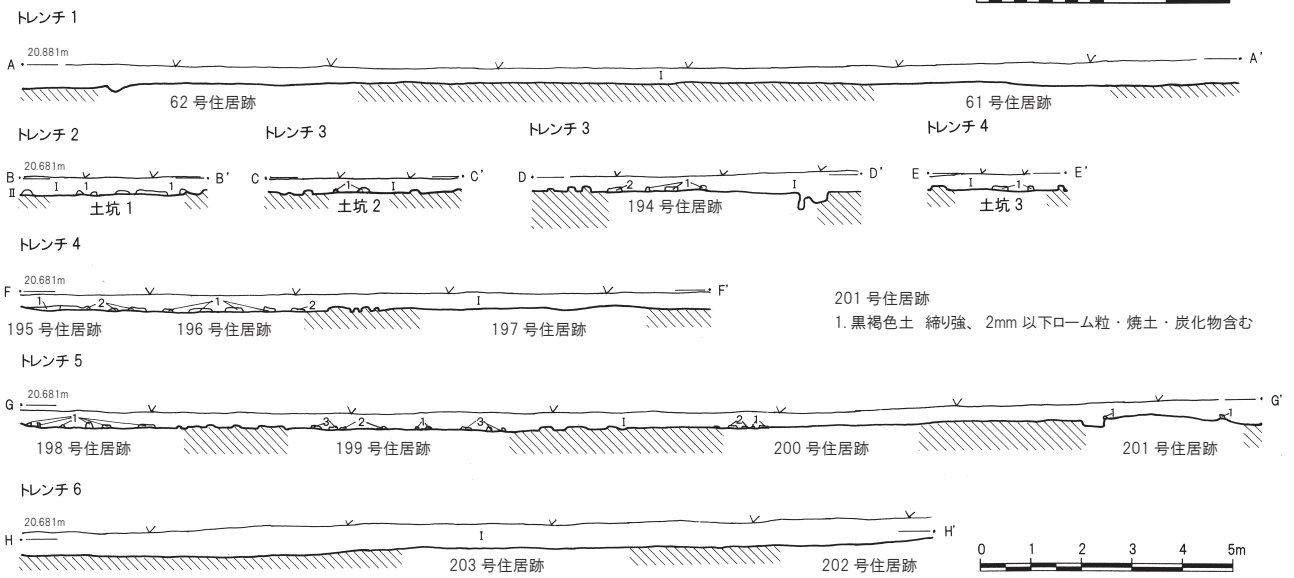
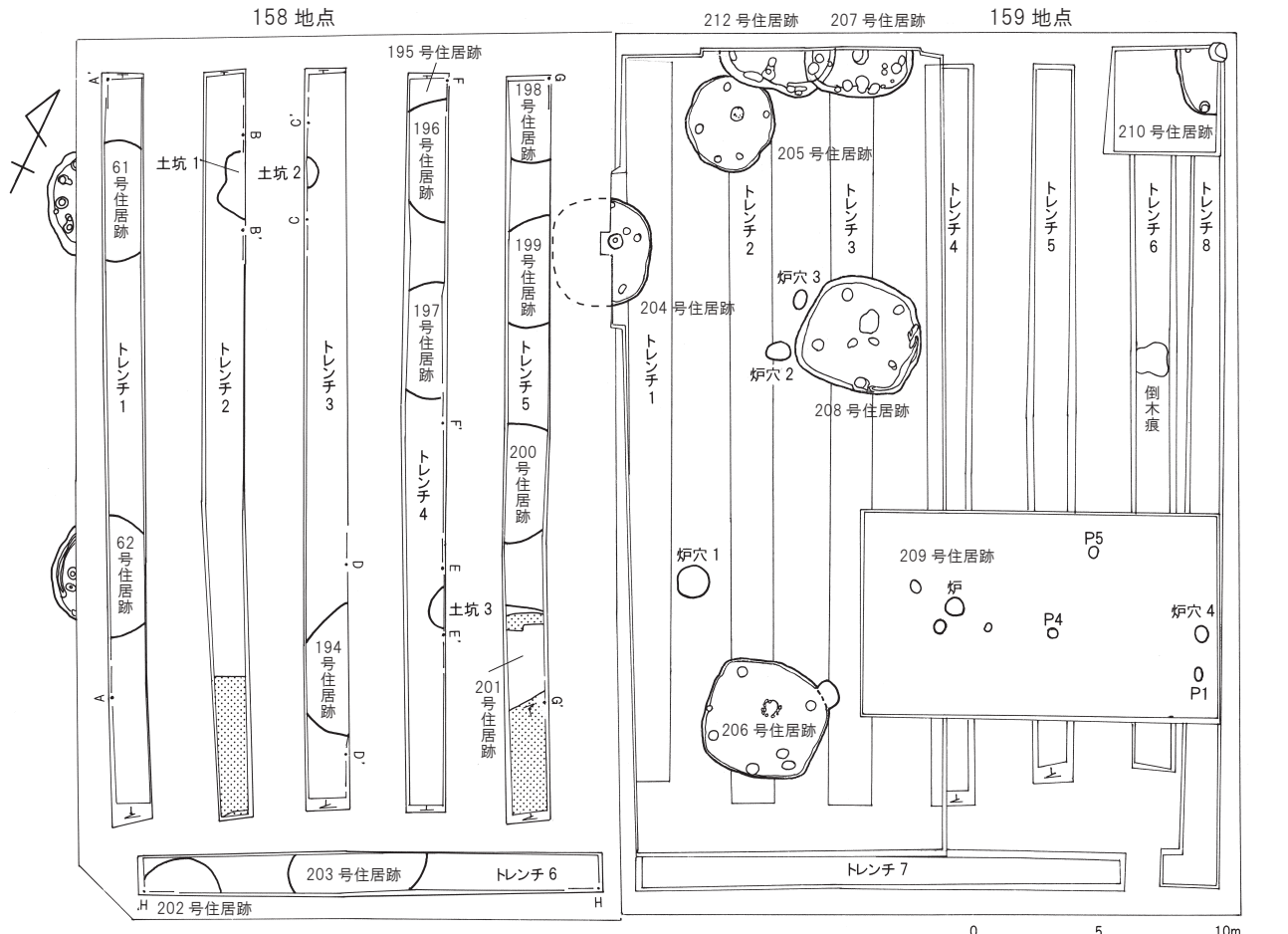
試掘調査の結果、溝状の掘り込み1カ所を確認。

上幅60cm、下幅20cm、深さ10cmである。覆土層から縄文土器1点が出土したが、遺構の時期を示すものとは考えられず、遺構とも判断出来ない。第77図の1は縄文土器の口縁部片で、地文はR1縄文。

なお、本地点は試掘調査段階では西ノ原遺跡第154地点としていたが、地点名の重複が判明したので、第168地点に変更した。

第36表 西ノ原遺跡第158地点出土石器観察表(単位cm・g)

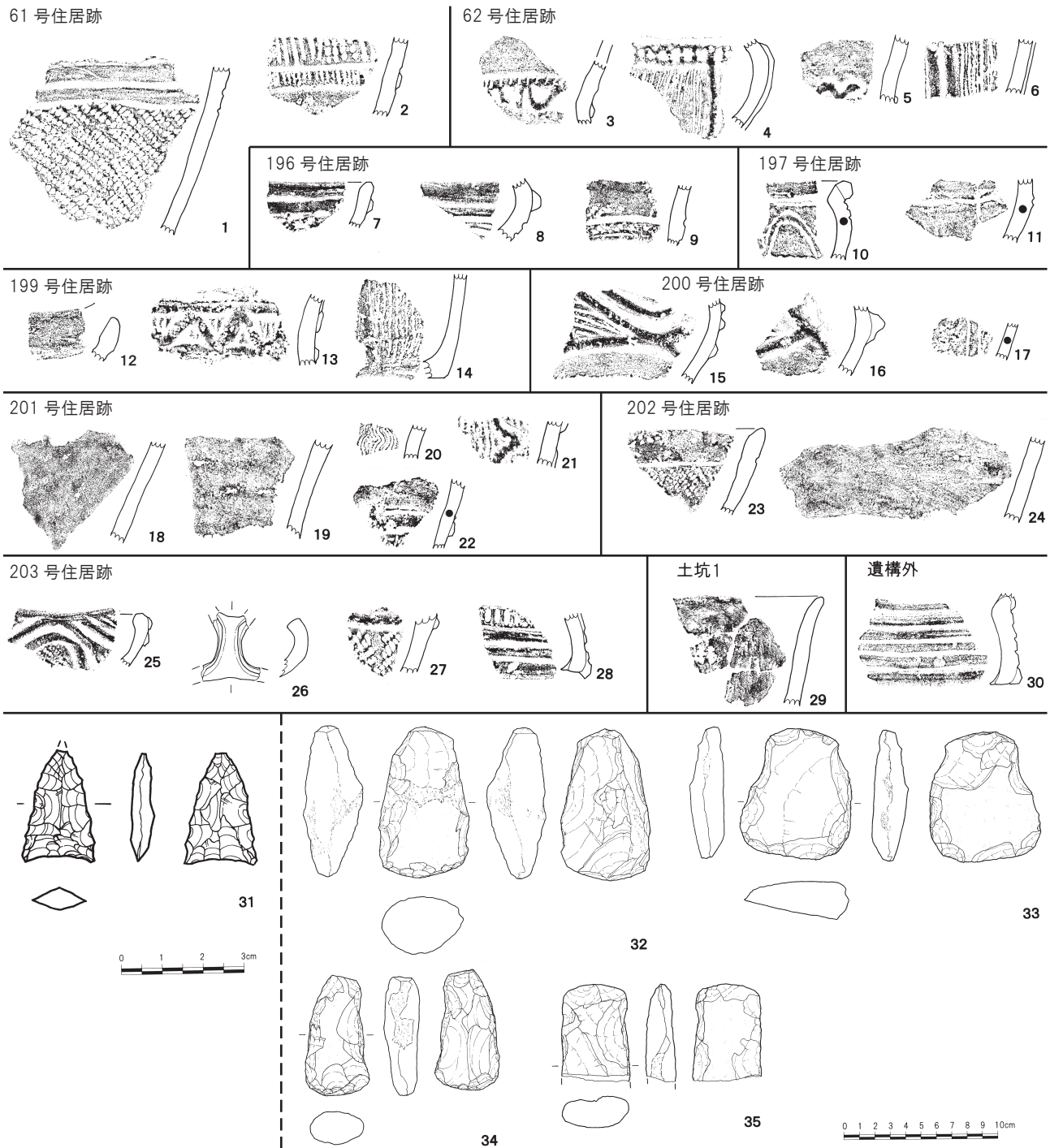
図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
第77図31	195号住居跡、一括	石鏃	(2.1)	1.4	0.4	(1.07)	チャート	縄文時代	先端部欠損
第77図32	62号住居跡、一括	打製石斧	9.8	5.9	3.8	246.95	頁岩	縄文時代	完形
第77図33	遺構外	打製石斧	8.5	7.3	2.4	178.65	粗粒砂岩	縄文時代	完形
第77図34	201号住居跡、一括	打製石斧	7.9	4.3	2.3	91.05	ホルンフェルス	縄文時代	完形
第77図35	61号住居跡、一括	打製石斧	(6.3)	(4.5)	2.0	(84.31)	粗粒砂岩	縄文時代	下部欠損



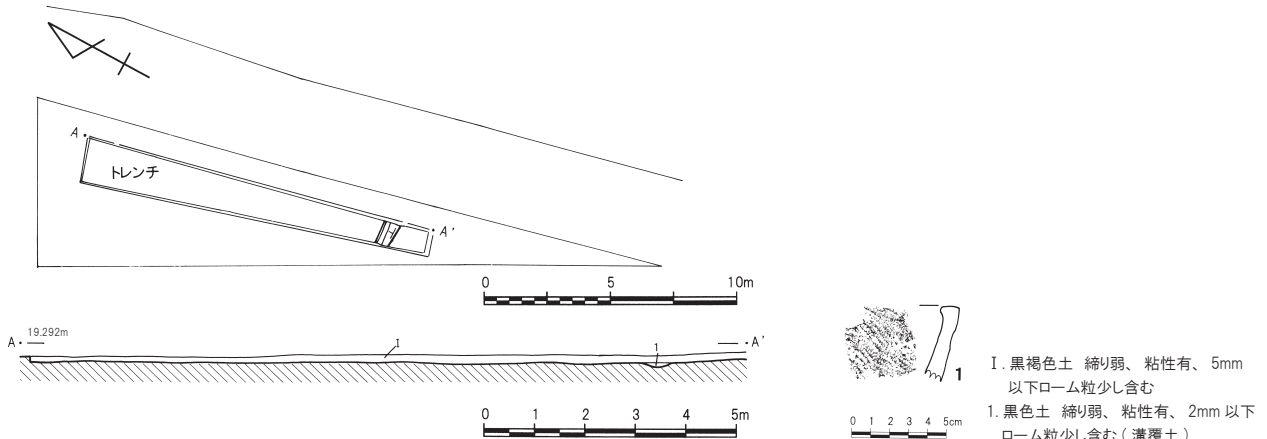
- I. 暗灰黄色土 耕作土、上部は締り弱く混入物が少ない、下部は締り有り、15mm 以下ロームブロックや多く含む
- II. 暗オリーブ褐色土 締り強い、2mm 以下ローム粒・炭化物含む
- III. 黄褐色土 地山ローム
- 土坑 1
 - 1. 黒褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒含む
 - 2. 暗オリーブ褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒含む
- 土坑 2
 - 1. 黒褐色土 締り強、1mm 以下ローム粒・土器含む
- 土坑 3
 - 1. 暗オリーブ褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒・焼土・1mm 以下炭化物含む
- 194 住居跡
 - 1. 黒褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒・焼土含む
 - 2. 暗オリーブ褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒・焼土含む

- 195 住居跡
 - 1. 黒褐色土 締り有、2mm 以下ローム粒・焼土含む
- 196 住居跡
 - 1. 暗オリーブ褐色土 締り強、1mm 以下ローム粒含む
 - 2. オリーブ褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒含む
- 198 号住居跡
 - 1. オリーブ褐色土 締り強
- 199 号住居跡
 - 1. 暗褐色土 締り強、黒褐色土と暗オリーブ褐色土が混ざる、2mm 以下焼土・炭化物やや多く含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒・3mm 以下焼土・炭化物含む
 - 3. 暗オリーブ褐色土 締り強、2mm 以下ローム粒含む
- 200 号住居跡
 - 1. オリーブ褐色土 締り強
 - 2. 黄褐色土 締り強

第 75 図 西ノ原遺跡第 158・159 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)



第76図 西ノ原遺跡第158地点出土遺物 (1/4)



第77図 西ノ原遺跡第168地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4・2/3)

第19章 中沢前遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

中沢前遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南約200m、さかい川の谷頭部から約700m下った右岸、標高17～18mに位置する。本遺跡の西側には西ノ原遺跡が隣接し、さかい川を挟んで北側には富士見市中沢遺跡がある。

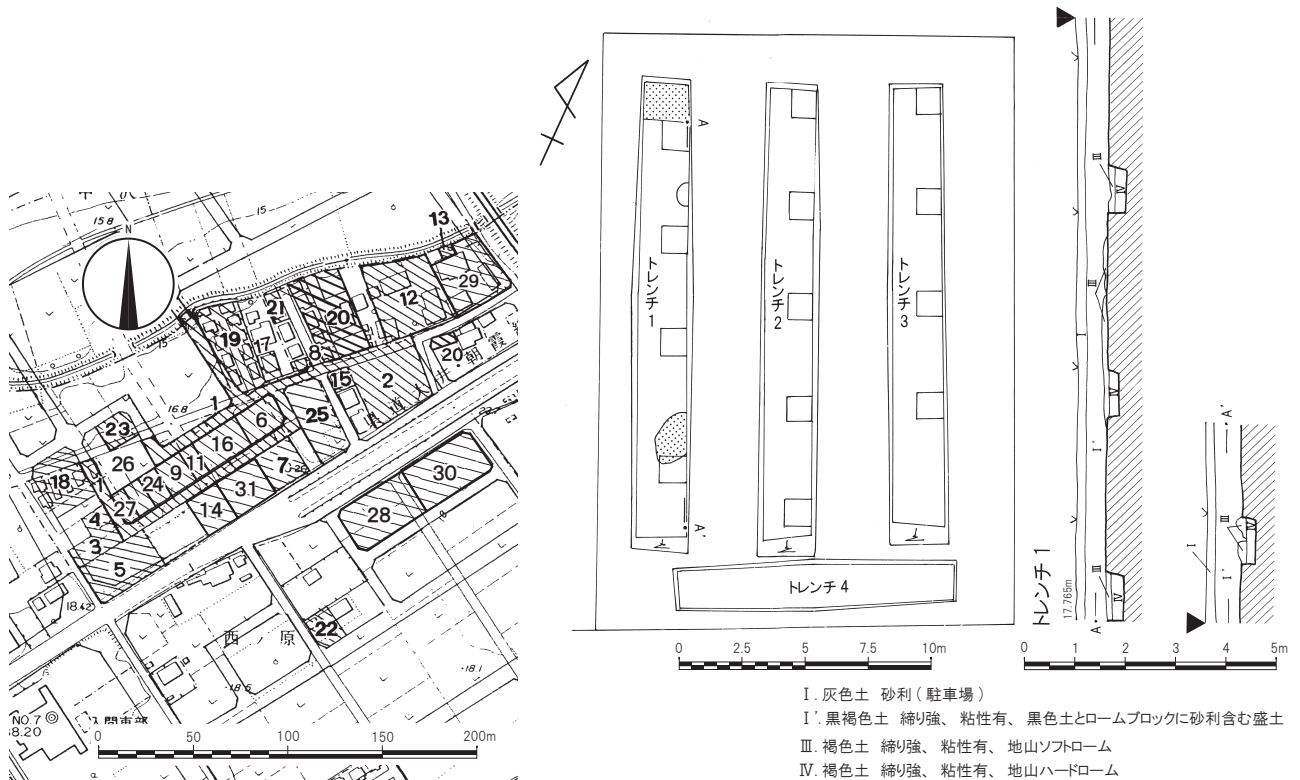
2016年7月現在、31ヶ所で調査を行い、確認した遺構と遺物は旧石器時代（立川ローム層Ⅳ～Ⅲ層上面）の石器集中1ヶ所と、縄文時代とみられる土坑とピット、中近世の土坑・地下室・溝である。縄文時代の遺物は前期の黒浜式と中期の加曾利E式の土器片が遺構外から出土しているがごく僅かである。中近世の遺構からは陶磁器等が出土しており、その中に須恵器片等が含まれており、既期の遺構の存在も予想されるが、遺跡の範囲や内容については未だ確定していない。

II 中沢前遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2013年2月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月8日～10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5～2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面下約50～60cmで地山ローム層を確認した。また、旧石器時代の確認調査を、1×1mで深さ約30cmのトレンチ13ヶ所を設定し、人力による表面精査を行った。遺構、遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行った。



第78図 中沢前遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第31地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第37表 中沢前遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 184-1、189-3	1990.8.28～10.18	1,155	道路築造	土坑4・ピット13	調査6集
2	苗間 221-3	(1991.3.14～3.18)	1,333	個人住宅	縄文前期土器	町I
3	苗間字西ノ原 189-3	(1992.10.1・2)	272	個人住宅	なし	町II
4	苗間字西ノ原 201-2	(1992.11.13～11.20)	168	個人住宅	土坑1	町II
5	苗間 184-1	(1993.2.13～2.18)	732	駐車場	遺構遺物なし	町II
6	苗間 202-1	(1993.4.23～4.26)	506	個人住宅	土坑1・縄文前期土器	町III
7	苗間 202-1・3	(1993.11.26～11.29)	687	駐車場	遺構遺物なし	町III
8	苗間 206-2	(1993.2.3・4)	137	事務所	根切溝	町III
9	苗間 190	(1995.8.23・24)	222	個人住宅	土坑1	町V
10	苗間 185-1	未調査	174			
11	苗間 191-1	(1996.11.12)	155	個人住宅	遺構遺物なし	町VI
12	苗間 221	(1996.12.18～12.20)	1,323	個人住宅	縄文落とし穴1、縄文土器片	町VI
13	苗間 1-7-5の一部	未調査				
14	苗間 1-10-4	(1997.2.26～3.2)	310	店舗	遺構遺物なし	町VII
15	苗間 1-9-1	(1998.7.13)	109	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町VIII
16	苗間 1-11-4・5	(1999.3.11～3.15)	482	共同住宅	遺構遺物なし	町VIII
17	苗間 1-6-2	(1999.3.11～3.15)	165	個人住宅	遺構遺物なし	町VIII
18	苗間 1-12	(1999.7.21～7.28)	110	店舗併用共同住宅	遺構遺物なし	町IX
19	苗間 1-6-1・9	(1999.7.23～7.30)	360	共同住宅	縄文土坑1	町IX
20	苗間 33街区1画地	(1999.11.25～11.30)	231	駐車場	溝13、ピットなど	町IX
20	苗間 1-7-1	(2003.2.3～2.5)4.7～6.3	978	高齢者介護施設	旧石器(石器群1)、縄文(落とし穴1・集石1・土坑4)、近世以降(地下室2・溝9・溝状遺構41・柵列2・土坑4・ピット105)、旧石器、縄文土器、近世、近現代遺物	調査21集
21	苗間 1-6-4・5	(1999.11.29・30)	19	個人住宅	なし	町IX
22	うれし野 2-15-15	(2000.5.25・26)	20	個人住宅	遺構遺物なし	町X
23	苗間 1-11-1	(2001.5.11～5.15)	85	個人住宅	旧石器礫群	町XI
24	苗間 1-11-4	(2003.2.7～2.13)	185	個人住宅	境界溝	町XII
25	苗間 1-10-8	(2004.6.4～6.10)	809	共同住宅	土坑1、ピット1	町XII
26	苗間 1-11-13	(2005.11.30～12.1)	54	分譲住宅	遺構遺物なし	市2
27	苗間 1-11-4	(2010.2.9・10)	170	個人住宅	遺構遺物なし	市8
28	うれし野 2-8-1 他	(2011.6.8～6.14)	1,016	共同住宅	遺構なし、縄文土器	市14
29	苗間 1-8-3～7	(2012.10.1～10.5)	389	店舗	土坑3、ピット9、縄文土器片	市15
30	うれし野 2-8-2	(2013.2.4)	1,090	駐車場	遺構遺物なし	市15
31	苗間 1-10-5	(2013.5.8～5.10)	381	共同住宅	遺構遺物なし	市18

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群

第20章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2016年7月現在、54ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第50地点

(1) 調査の概要

調査は苗間薬師堂建設に伴うもので、原因者より

2013年10月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2013年12月11日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5～2mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約50cmの深さで地山ローム層を確認した。トレンチ2と3で既存薬師堂の基礎を確認した。トレンチ1で時期不明の掘り込み（土坑1）と近代のごみ穴（土坑2）、方形のプラン（土坑3）を確認した。土坑1～3は開発による影響がないため写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【土坑】土坑1～3の平面形態は不明である。時期は、土坑1は近代、土坑2・3は近世以降とみられる。

土坑1の規模は確認面径（129×88）cm、底径（94×61）cm、深さ39.1cmである。土坑2の規模は確認面径（259×27）cm、底径（105×33）cm、深さ16.2cmである。土坑3の規模は確認面径（100×55）cmで、プランを確認しただけである。

【遺物】（第80図1～6）遺物の詳細は第39表のとおりである。



第79図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

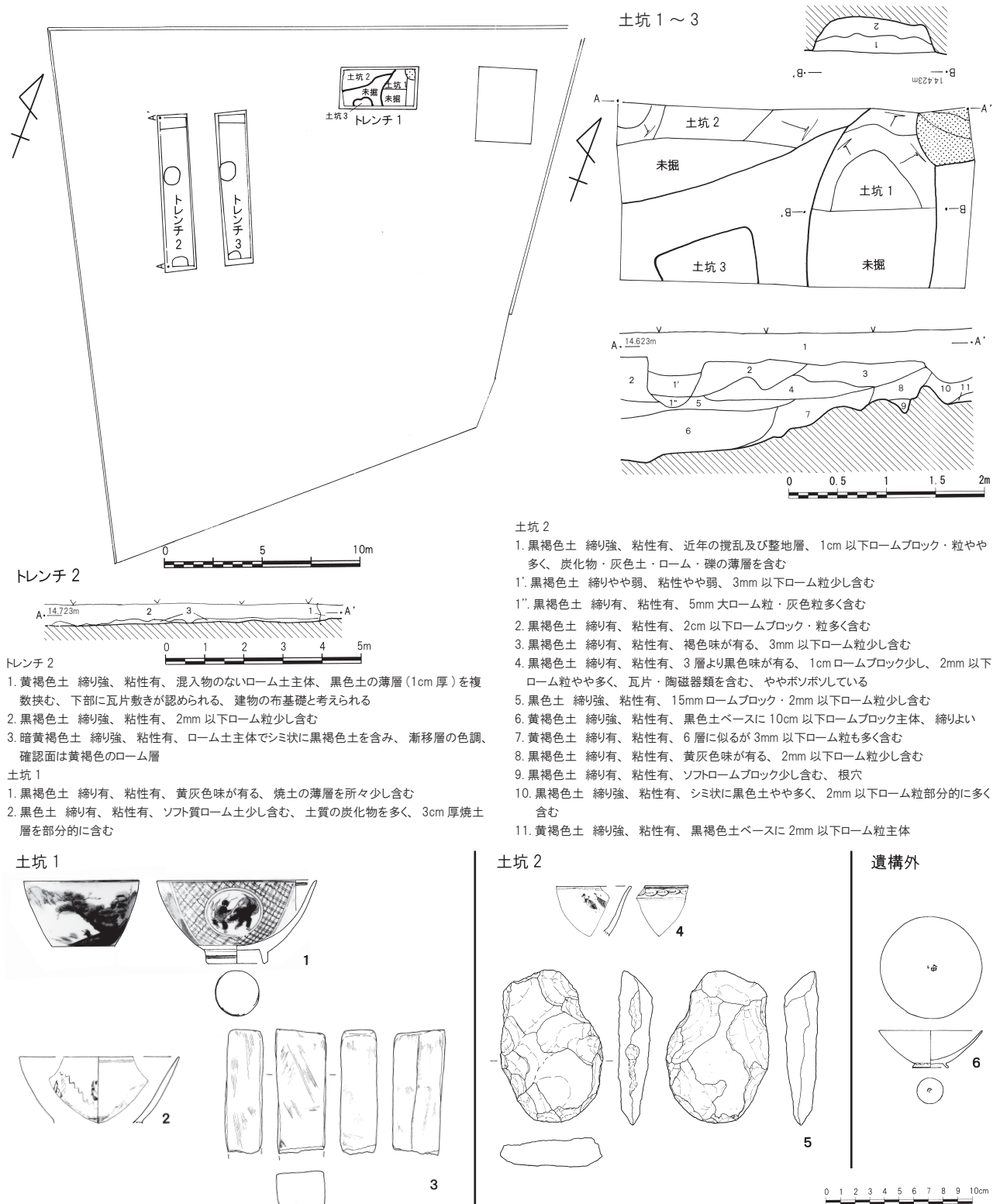
第38表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615	共同住宅	遺構なし、平安時代須恵器片、陶器片	町Ⅲ
2	苗間 295-2、299-3	1993.5.12～20	1,688	道路築造	落とし穴1、平安住居跡1軒(H1号)、縄文土坑1、中・近世掘立柱建物跡、地下式竈1、井戸、堀	町Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24～29)1995.4.3～5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡1軒(2号)、伏襲2、埋襲1、土坑2、ピット34他	町Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15)1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文住居跡1軒(3号)、土坑5、溝、他縄文中期後半～後期初頭土器	町Ⅵ
6	苗間 255、227-2	(1997.9.29・30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1・2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町Ⅶ
8	苗間 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	縄文土器片	町Ⅶ
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11)1998.9.14～10.15	219	共同住宅	縄文住居跡4軒、集石土坑1、落とし穴1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ピット33	町Ⅶ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21)1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑17、ピット7	町Ⅸ
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構遺物無し	町Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑12、ピット	町Ⅹ
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘立柱建物跡1棟、溝2、井戸1、柵列、ピット38	町Ⅹ
15	苗間 293-15	(2001.4.11)2001.4.12・13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町ⅩⅠ
16	苗間 309-14	(2001.7.23・24)2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋襲4、土坑13、溝2、地下式竈1、地下室1、竪穴状遺構1、ピット38	町ⅩⅠ
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町ⅩⅠ
18	苗間 304-1、303-6	(2002.5.15～25)2002.5.27～6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡5(8～12号)、土坑、古代・中世堀跡	町ⅩⅡ
19	苗間 264-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町ⅩⅡ
20	苗間 293-11	(2003.1.14・15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ピット2	町ⅩⅡ
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674	土地造成	ピット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町ⅩⅡ
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ピット38、江戸後期陶磁器	町ⅩⅡ
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町ⅩⅡ
24	苗間神明後 293-4・10	(2004.9.30～10.7)	148	個人住宅	遺構遺物無し	町ⅩⅡ
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660	店舗併用住宅	遺構遺物無し	町ⅩⅡ
26	苗間神明後 301、303-3～5・7、304-1	(2005.6.1～8)2005.6.15～30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡1(13号)、中世地下式竈、近世土坑5、溝	調査18集
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20～25)2005.7.27～29	385	共同住宅	縄文中期住居跡1(14号)	調査18集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8～31)2006.6.29～10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡11(15～25号)、集石23、土坑5、落とし穴1、炬穴3、ピット、溝4、古代・中世堀跡1	市3
29	苗間神明後 303-21・24	(2006.5.8～11)2006.5.12～19	136	個人住宅	ピット1、古代・中世堀跡1	市3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19)2006.12.14～19	101	個人住宅	ピット12	市3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3～7)	499	個人住宅	土坑2	市4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代攪乱	市4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	個人住宅	落とし穴1、中世以降溝6、井戸2、土坑38、ピット16	市6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	357	分譲住宅		市6
34	苗間字神明後 283-1、284-1の一部	(2008.4.30～5.15)2008.5.16～28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡1(26号)、落とし穴1、集石3、ピット	市5
35	苗間字神明後 293-6・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット1	市6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13)2009.4.15～30	120	個人住宅	縄文後期住居跡1	市8
38	苗間字神明後 293-1、292-13	(2009.7.6・7)2009.7.8～16	265	個人住宅	中近世溝1	市8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12)2009.8.24～9.1	378	共同住宅	中～近世溝2、ピット28、落とし穴1	市7
40	苗間 309-1	(2009.11.9～16)2009.12.18～2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑1、中世地下式竈2、井戸1、竪穴状遺構1、土坑9	市8
41	苗間字神明後 298-1、299-1の一部	(2010.5.25～6.7)2010.6.15～7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構16、溝7、木炭窯2、ピット214	市9
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1・2)	312	宅地造成	遺構遺物無し(隣接地)	市10
43	苗間 292-14	(2010.10.20～22)2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ピット7、本調査	市10
44	苗間神明後 367-1、368-1の一部	(2011.7.8)2011.7.11～13	1,536	個人住宅	落とし穴1、土器・陶器片	市14
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物なし	市14
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9・10)	233	個人住宅	縄文土坑1、土器片	市15
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24)2012.4.25～5.10	340	個人住宅	縄文時代集石3、ピット4、縄文土器片	市15
48	苗間神明後 315-1の一部	(2012.5.7)2012.5.8～14	171	個人住宅	井戸2、溝3、土坑8、ピット、板碑、カワラケ、近世陶磁器、石臼片	市15
49	苗間神明後 367-1、368-6	(2013.1.30)	28	個人住宅	遺構遺物なし	市15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531	薬師堂	遺構遺物なし	市18
51	神明後 295-1、297-1・2の一部、298-1、299-1	(2014.11.5～13)2014.11.20～25	487	集合住宅	縄文時代土坑2、中近世溝2、縄文土器	未報告
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
53	苗間字神明後 298-1	(2015.1.28)	495	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	共同住宅	遺構遺物なし	未報告

※町：大井町町内遺跡群、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群

第 39 表 神明後遺跡第 50 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

掲載No	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	土坑 1	磁器 / 碗	11.1	4.1	5.6	轆轤成形 / ゴム版絵付け?・コバルト染付 / 麒麟、山水楼阁人物文、高台二重圏線、口縁内二重圏線、高台内圏線 / 畳付無軸	—	1920 以降
2	土坑 1	磁器 / 広東碗	(11.0)	—	(5.0)	轆轤成形 / 染付 / 草花文、高台圏線、口縁内二重圏線、見込み圏線 / 二次被熱 (焼継痕か)	肥前	1780 ~ 1830
3	土坑 1	砥石	(8.5)	4.5	2.5	石材: 流紋岩 / 色調: 白色 / 重量: 142.14g / 5 面使用	上州	近世以降
4	土坑 2	磁器 / 端反碗	—	—	(3.5)	轆轤成形 / 染付 / 草花文、口縁二重圏線、口縁内連鎖文、見込み二重圏線	瀬戸・美濃	1850 ~ 1880
5	土坑 2	石器 / 打製石斧	10.4	7.0	2.4	石材: 粗粒砂岩 / 重量: 190.35g / 縦斧 / 完形 / 右主面、前・後側面の基部に摩滅痕、前側面下部に潰れ	—	縄文時代
6	遺構外	磁器 / 小杯	7.0	2.5	2.6	轆轤成形 / 上絵付(金色) / 平形、鈎高台 / 高台櫛歯文、見込み文字「□□□」、外底面「一八」銘 / 畳付無軸	瀬戸・美濃	1800 ~ 1860



第 80 図 神明後遺跡第 50 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 21 章 苗間東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600 m、さかい川の谷頭部から約 1,800 m 下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高 10～11 m、現谷底との比高差は 1～1.5 m を測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1979 年に開発に伴う緊急調査として行われた。2016 年 7 月現在 33 ケ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

II 苗間東久保遺跡第 31 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 12 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2014 年 1 月 20 日～2 月 28 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1～1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、縄文時代とみられる土坑 1 基を検出した。地表面から地山ローム層までの深さは約 70～80 cm である。

土坑の平面形態は円形で、規模は確認面径 140×(76) cm、底径 105×(60) cm、深さ 48 cm である。

建物基礎から遺構確認面まで、30 cm 以上の保護層が確保出来るため、工事立会いの措置とした。

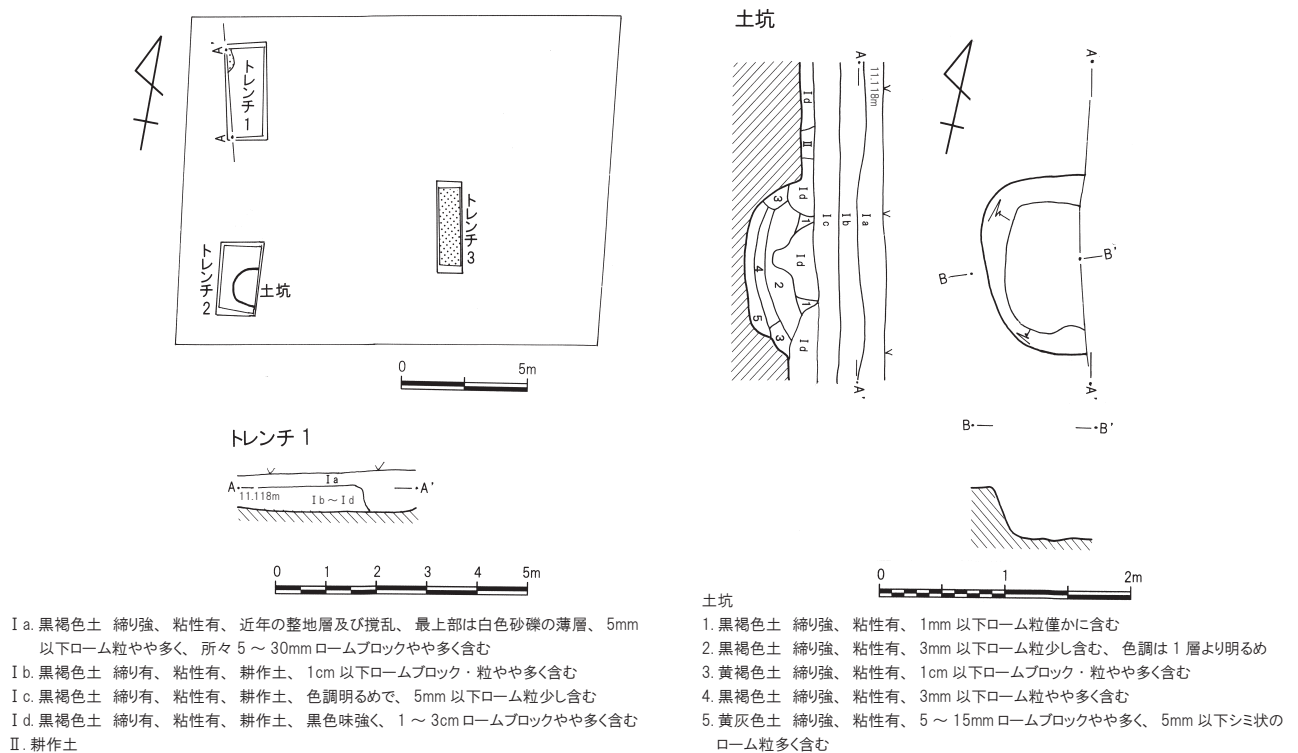
写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。



第 81 図 苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第40表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井町大字苗間字東久保 579-2~8	(1979.4.3~21)	605	共同住宅	炉穴 10、土坑 14、加曾利 E II 式土器・石器	東部遺跡群 I
2	大井町大字苗間字東久保 646-6~10	(1979.9.4~10)10.30~11.8	530	共同住宅	住居 1、縄文中期後半土器	東部遺跡群 I
3	大井町大字苗間字東久保 642-11・12	(1980.4.7)	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 II
4	大井町大字苗間字東久保 642	(1980.4.16~5.10)	750	共同住宅	住居 2、土坑 6、縄文中期後半土器他	東部遺跡群 II
5	大井町大字苗間字東久保 636-3	(1980.9.8~24)	106	共同住宅	炉穴 2、集石 1、土坑 3、柱穴 32、ピット 6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群 II
6	大井町大字苗間字東久保 639	(1980.11.27~12.26)	577		住居跡 2、炉穴 4、土坑 23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群 II
7	大井町大字苗間字東久保 573-3	(1982.4.1~3)	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 III
8	大井町大字苗間字神明前 568-7~9	(1982.4.2~9)	360	共同住宅	遺構遺物なし	東部遺跡群 IV
9	大井町大字苗間字東久保 642-1	(1982.11.8~12.5)	660	共同住宅	池状遺構、土坑 1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群 V
10		1984	340		土坑 5、ピット 45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11		1984	560		遺構なし、縄文中期勝坂式土器他	未報告
12		1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利 E 式土器他	未報告
13		1984	900		住居跡 2、土坑 88、ピット 10、縄文堀之内式・加曾利 B 式土器	大井町史資料 I
14	大井町大字苗間字東久保 635	(1987.4.1)	923		土坑 7、ピット 92、平安以降ピット 6、縄文後期土器	東部遺跡群 IX
15	大井町大字苗間字東久保 635	(1988.12.8~14)	447	共同住宅	土坑 7、ピット 21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器	東部遺跡群 IX
16	大井町大字苗間 645-1	(1989.8.21~24)8.24	390	共同住宅	住居跡 1、土坑 2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群
17	大井町大字苗間 636-4	(1991.3.12~15)	583	駐車場	土坑 1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群 I
18	大井町苗間字東久保 464、639 他	(1992.6.2~9)9.7~10.22	906	分譲住宅	住居跡 3、落とし穴 5、土坑 11、ピット 14、縄文前期・後期土器	調査会報告 5 集
19	苗間 637-14~16	(1994.2.8~16)2.16~3.25	350	宅地開発	住居跡 1、落とし穴 1、土坑 5、ピット 39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告 12 集
20	苗間 637-18・19	(1998.3.18~24)6.15~8.13	664	個人住宅	土坑 28、集石土坑 5、ピット 128、縄文後期土器、旧石器、泥面子	調査会報告 12 集
21	苗間字神明後 333-1	(1999.8.3~6)	350	個人住宅	土坑 2、縄文土器・石鏃	町内遺跡群 IX
22	苗間 645-11	(2001.10.25)	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群 X I
23	苗間字東久保 640-9	(2004.9.1)	104	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群 X II
24	苗間東久保 637-1・28	(2006.3.7~4.20)4.10~28	561	分譲住宅	縄文時代土坑 10、ピット 164、縄文早期前半~後期中葉土器・石器	市内遺跡群 2
25	苗間字東久保 631-3	(2007.7.11~23)	414	分譲住宅	ピット 4、縄文土器	市内遺跡群 4
26	苗間字東久保 637-3・34	(2010.6.1~11)7.2~23	429	分譲住宅	縄文後期住居跡 1、土坑 5、ピット 99、風倒木痕 1	市内遺跡群 12
27						
28	苗間字東久保 644-1	(2011.7.21・22)	112	個人住宅	縄文時代ピット 1、土器片	市内遺跡群 14
29	苗間字東久保 630-1・3	(2011.7.28~8.1)	216	個人住宅	近世以降土坑 1、ピット 2、溝 4、縄文土器、土製品	市内遺跡群 14
30	苗間字東久保 641-3、644-4	(2011.8.22~24)	238	個人住宅	ピット 5、縄文土器片	市内遺跡群 14
31	苗間字東久保 644-6・7	(2014.1.20~28)	220	個人住宅	縄文時代土坑 1、土器片	市内遺跡群 18
32	苗間字神明後 334-1、335-1 他	(2014.3.6~27)4.8~5.19	2,989	共同住宅	縄文時代炉穴、中世以降溝検出、本調査	市内遺跡群 16



第 82 図 苗間東久保遺跡第 31 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑 (1/60)

第22章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2016年7月現在45地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺跡遺跡第38地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅増築に伴うもので、原因者より2013年5月7日付けて、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月13・14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは60～70cmである。遺構、遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第83図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第 39 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 5 月 17 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部南寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 6 月 25 日～7 月 3 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 6 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは 50～70 cm である。

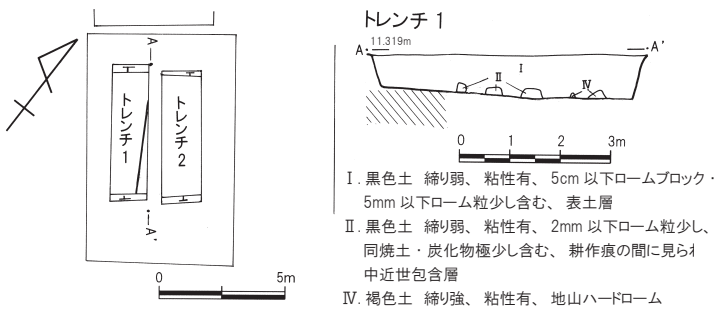
(2) 遺構と遺物

トレンチ 2・3 で溝を確認した。北側と南側は調査区外に延びる。溝の断面形態は逆台形を呈する。規模は上幅 100～135 cm、下幅 35～40 cm、深さ 47.5 cm である。北側約 700 m に位置する、浄禅寺跡遺跡第 29 地点で南北方向に延びる、堀跡 1 の形態に類似し、今後周辺部の調査により同一遺構となる可能性も考えられる。

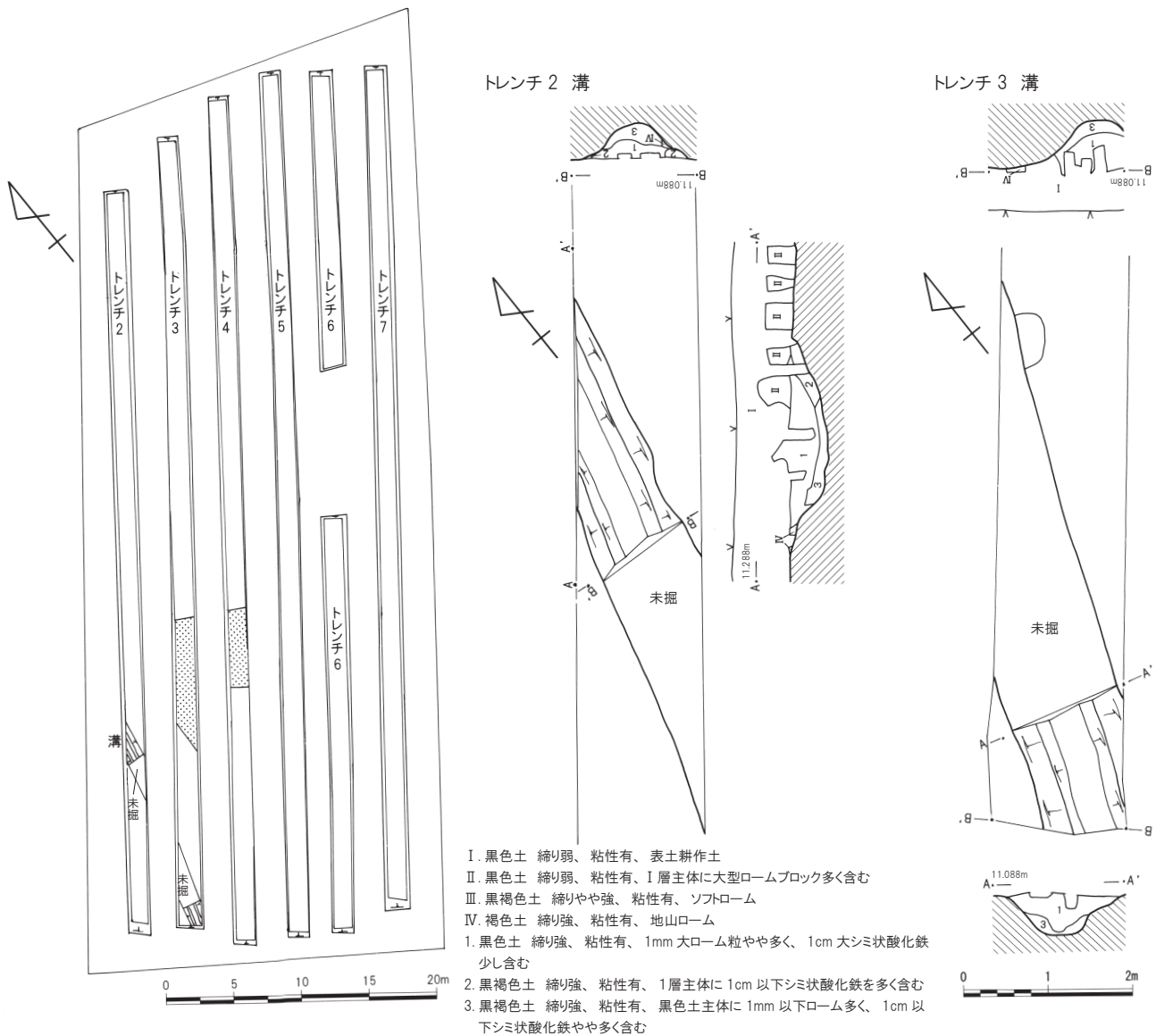
遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 41 表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保 579	1979.4.3～21	605	共同住宅	苗間東久保 1 地点として報告済み炉穴 10、土坑 14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群 I
2	苗間東久保 573	1982.4.1～3	396	共同住宅	苗間東久保 7 地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群 III
3	苗間東久保 581	1984.7.20・21	320	共同住宅	苗間東久保 12 地点を浄禅寺 3 地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後 346-1	1989.11.15～25	150	開発予定地	炉穴 10、土坑 7、ピット 14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群 X
5	苗間 374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群 I
6	苗間 358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 I
7	苗間東久保 573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	炉穴 8、井戸 3、堀 3、縄文草～中期	調査会報告 5 集
8	苗間 357-1	(1994.9.20～27)	615	宅地分譲	落とし穴、根切溝	町内遺跡群 IV
9	苗間 353	(1994.10.18)、2007.5.22～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群 IV、市内 4
10	苗間 356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土壌墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告 12 集
11	苗間 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群 IV
12	苗間 35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中 3、ピット 16、溝 5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群 V
13	苗間 314-2	(1996.1.8～29)	101	個人住宅	土坑 13、ピット 11、井戸 1、溝 2、縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群 V
14	苗間 360-1、362-2	(1996.6.3～12)1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	礎群 3、落とし穴 1、溝 4、ピット 251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群 VI
15	苗間 362-4・5	(1996.6.3～12)1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	炉穴 7	町内遺跡群 VI
16	苗間 579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居 1、炉穴 14、ピット 61、土坑 16、溝 4、縄文早期後半、前期、中期	町内遺跡群 VII
17	苗間 345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群 VIII
18	苗間 345-3・4	(1999.5.26～6.24)1999.6.26～8.3	599	個人住宅	炉穴 8、集石土坑 3、土坑 13、ピット 27、溝縄文後期土器、土器	町内遺跡群 IX
19	苗間神明後 345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	炉穴 1、集石 2、焼土痕 4、土坑 22、井戸 2、溝 8、掘立 5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告 15 集
20	苗間神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群 X I
21	苗間東久保 591-3、592-7	(2001.11.19・20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群 X I
22	苗間 373-5・8、377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑 1、ピット 4、溝、遺物なし	町内遺跡群 X II
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット 2、溝、遺物なし	町内遺跡群 X II
24	苗間神明後 346-1・2 の一部	(2004.8.30・31)	391	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 X II
25	苗間 339-1・2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ピット 2	町内遺跡群 X II
	苗間神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
26	苗間神明後 354-2 の一部	(2005.3.3～8)2006.4.17～28、6.7～15	216	分譲住宅	炉穴 10、土坑 8、ピット 21、溝 1、縄文中期片	市内遺跡群 3
27	苗間神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22)2006.1.23～2.23	696	新設道路築造分譲住宅	住居跡 1、炉穴 15、埋喪 2、土坑 117、ピット 127、溝 1	市内遺跡群 2
28	苗間字東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築工事	溝 2	市内遺跡群 3
29	苗間 570-1・2、571-1・2、575	(2007.8.7～9.21)2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡 3、井戸 15、土坑 15、堀跡 1、溝 17、陶磁器・板碑他	市内遺跡群 4
30	苗間 359-1	(2007.9.14～10.9)2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡 5、木炭窯 1、土坑 15、溝 2、陶磁器・板碑他	市内遺跡群 4
31	苗間字神明後 342-14 一部	(2007.2.19)2007.2.19～3.5	171	個人住宅	住居跡 1、炉穴 1、土坑 1、ピット 26、縄文土器・石器	市内遺跡群 4
32	苗間字神明後 340-17、342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡 1、ピット 1、縄文土器	市内遺跡群 4
33	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑 1	市内遺跡群 10
34	苗間字東久保 586-7、587-2 の一部	(2012.8.24)	160	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 14
35	苗間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	個人住宅	ピット 1、縄文土器片	市内遺跡群 15
36	苗間字東久保 573-5	(2012.8.6～9)2012.9.5～12	401	宅地造成	土坑 2、ピット 14、溝 5	市内遺跡群 15
37	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群 15
38	苗間東久保 578-11	(2013.5.14)	53.4	個人住宅	遺構なし、表探土器	市内遺跡群 18
39	苗間 565-1	(2013.6.25～7.3)	1,709	分譲住宅	中世以降の溝、遺物なし	市内遺跡群 18
40	苗間字神明後 355-1・2・12	(2015.8.19～9.30)2015.10.1～11.9	2,308.06	宅地造成	縄文時代住居跡 1、集石土坑 3、溝、土坑、ピット、縄文土器	未報告
41	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	分譲住宅	遺構・遺物なし	未報告



第 84 図 浄禅寺跡遺跡第 38 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)



第 85 図 浄禅寺跡遺跡第 39 地点遺構配置図 (1/500)、溝 (1/80)

第23章 大井宿遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は、国道254号線川越街道沿いの旧大井の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高21～22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、2000年4月24日付けで大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間（1624～1643）に整備された日本橋から川越に至る11里（約44km）の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅（上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井）の1つが大井宿である。

大井宿遺跡では2016年7月現在、17地点で調査が行われ、中世～近代の遺構・遺物が検出されている。

II 大井宿遺跡第17地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年5月14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約80cmである。トレンチ1で遺構らしき掘り込を確認した。長さ390cm、上幅18cm以上、深さ40cmである。覆土層の観察から近世以降とみられる。遺物なし。第87図1の徳利は、現地に廃棄されていた灰釉徳利。近代。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

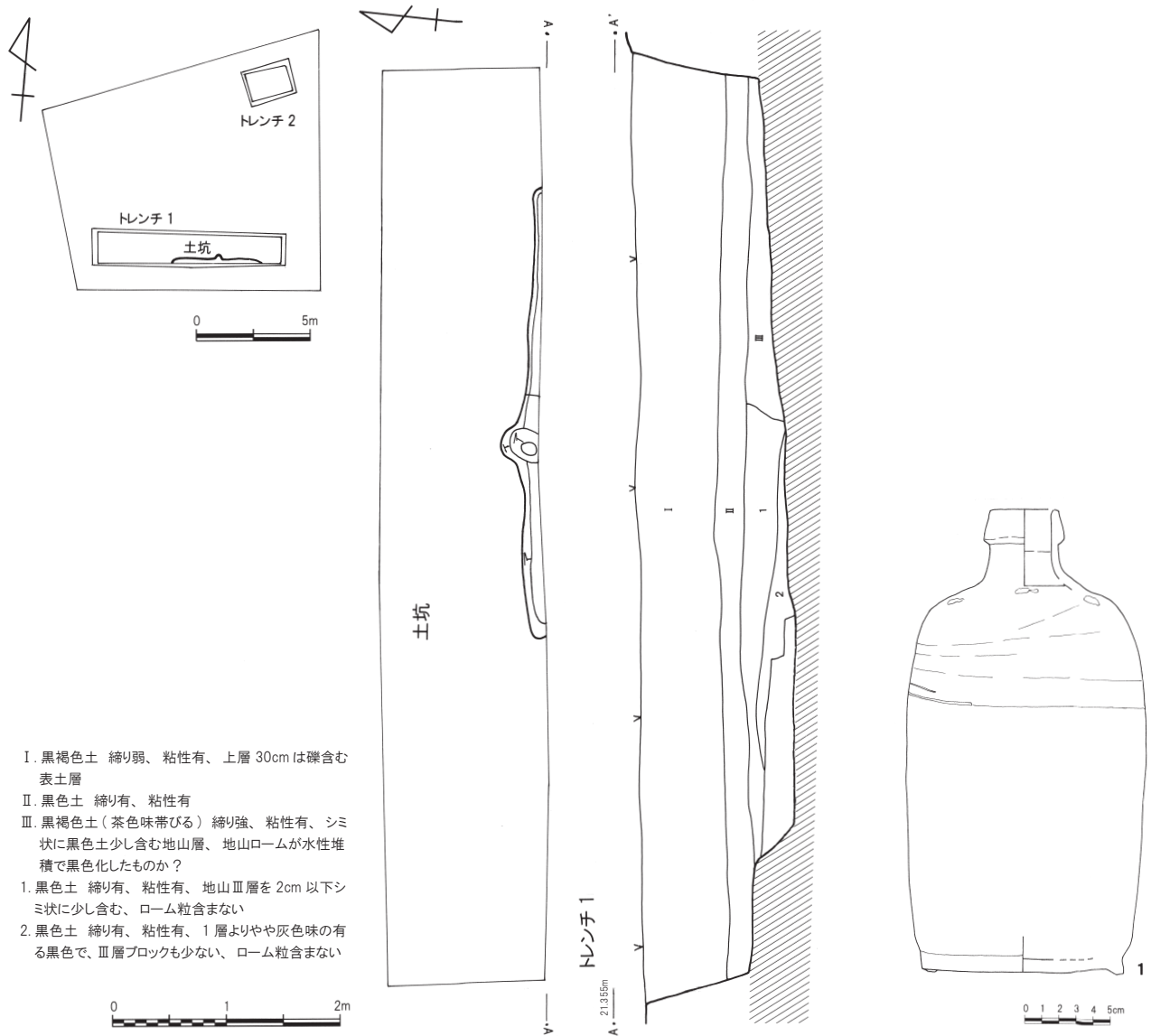


第86図 大井宿遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 42 表 大井宿遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1-2-22・23	(1999.8.9)	110	店舗	近代(焼土層)	町IX
2	大井 1-6-1	(2000.3.14～3.28)	786	店舗	近世(溝 1・土坑 49・ピット)	町IX
3	大井 1-6-8	(2000.7.7～7.13)	605	高齢者介護施設	中近世(溝)	町X
4	大井 1-6-25	(2000.8.28～8.30)	122	個人住宅	近世以降(溝・土坑)	町X
5	大井 1-5-9	(2000.10.24・25)	781	駐車場	近世以降(溝・土坑他)	町X
6	大井 1052-1・2, 1071	(2000.11.28～12.15)	2,300	長屋住宅	近世以降(溝・土坑他)	町X
7	大井 1-2-16	(2002.4.15・16)	257	事務所	近世以降(溝・土坑他)	町X II
8	大井 1-6-7	(2004.4.20)	282	個人住宅	遺構遺物なし	町X II
9	大井 1-3-14・15	(2003.2.26～4.3)2004.7.30～9.3	1,617	宅地造成	近世・近代(穴蔵 1・土坑 20・溝 14・集石 8・礎石 1・井戸 2・埋桶 1・ピット)	大調 21
10	大井 1-3-16	(2004.9.21～10.6)	341	分譲住宅	近世以降(溝・土坑他)	町X II
11	大井 1-5-5・11	(2004.12.10～12.20)2005.1.6～1.29	970	共同住宅	近世・近代(穴蔵 1・井戸 1・大溝 1・溝 5・土坑 11・土蔵跡 1・ピット)	大調 21
12	大井 1-6-22	(2006.6.13～6.16)	2,664	事務所兼店舗	縄文(ピット)近世以降(溝・土坑・井戸他)	市 3
13	大井 1-3-32	(2006.8.21)2006.8.22～8.30	151	個人住宅	近世以降(土坑 8・ピット 57)	市 3
14	大井 1-2-19・20	(2007.3.27～3.29)	944	コンテナボックス	近世以降(土坑・井戸・建物跡・ピット他)	市 3
15	大井 1-5-3	(2007.8.1～8.10)	429	個人住宅	近世以降(大溝 1・土坑 4・ピット 16)	市 4
16	大井 1-5-11	(2009.3.15～3.18)2009.3.19～4.30	500.3	共同住宅	近世以降(土坑 16、礎石 1、溝 29、ピット 413、陶磁器他)	市 8
17	大井 1-5-16	(2013.5.14)	110	個人住宅	土坑 1、近世陶磁器	市 18

※町：大井町町内遺跡群、大調：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第 87 図 大井宿遺跡第 17 地点遺構配置図 (1/300)、土坑 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第24章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖を成し、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

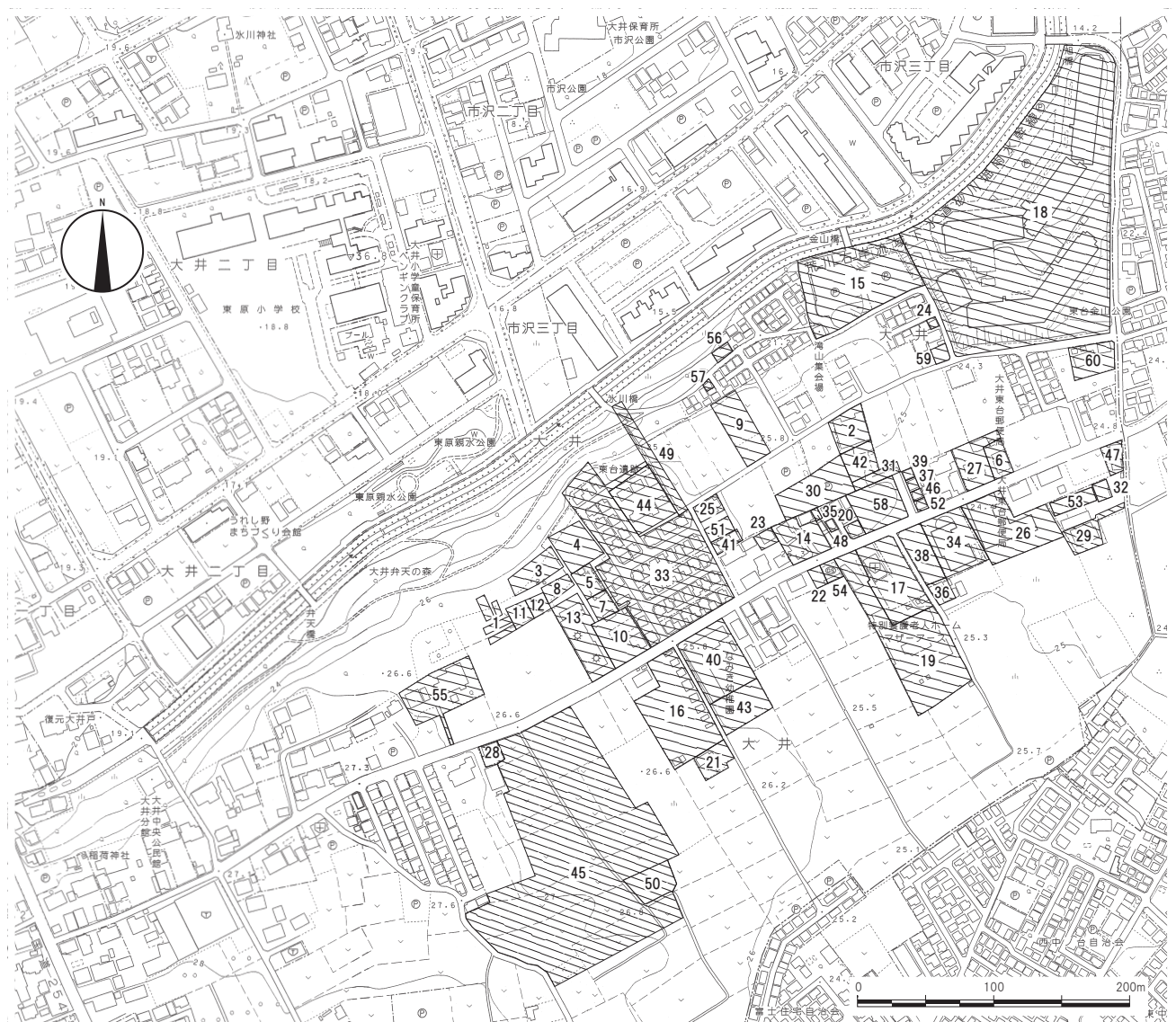
旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層～Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では、早期1軒、後期6軒、中期

144軒、不明20軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている（2016年7月現在）。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で8世紀後半の製鉄炉や木炭窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡と大井氏館跡遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡、大井氏館跡遺跡との関係が注目される。



第88図 東台遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

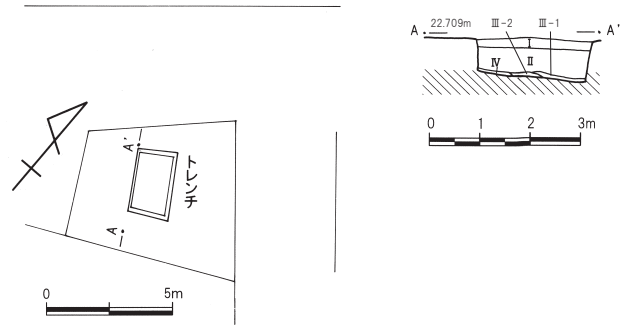
II 東台遺跡第57地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2013年3月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年4月5～11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約65cmである。遺構、遺物は確認されなかった。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



- I. 褐色土 締り弱、粘性無、表土盛土(ローム主体)
- II. 黒色土+褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に10cm大ロームブロックを南は少し、北に向かって多く含む、旧耕作土にローム盛土
- III-1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土少し含む、耕作土(斜面の堆積土)
- III-2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体でシミ状に2～3cm以下黒褐色土少し含む
- IV. 褐色土 締り強、粘性有、地山ローム(ハード)

第89図 東台遺跡第57地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第43表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂	遺構なし、縄文中期土器	
2	大井東台640-7	1981.12.14～1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居跡12、旧石器時代石器	東Ⅲ
3	大井東台672	1982.5.19～6.15	666	宅地造成	炉穴7、土坑2、柱穴群	東Ⅳ
4	大井東台671	1982.6.17～11.18	587	農地転用	旧石器ユニット、縄文中期住居跡3、後期住居跡1、集石4、土坑14、溝	東Ⅳ
5	大井東台	1983.7.25～8.9	195	町史編纂	縄文中期住居跡2、土坑1	東台遺跡
6	大井東台	1984.1.9～1.12		宅地造成	縄文中期住居跡1	
7	大井東台670-2	1984.5.15～6.13		共同住宅	縄文中期住居跡4、後期住居跡1	
8	大井東台672	1984.8.18～9.21	345	町史編纂	縄文中期住居跡1、炉穴2、土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25～1985.2.15	1,000	駐車場	旧石器礫群、縄文中期住居跡22、後期住居跡1、炉穴、ピット群	町Ⅰ
10	大井東台670-1	1985.10.1～11.25	896	住宅	縄文中期住居跡5、土坑5	東Ⅵ
11	大井東台673	1986.1.14～3.20	660	宅地造成	縄文中期住居跡2、集石土坑3、土坑1、ピット	東Ⅶ
12	大井東台673	1987.5.6～6.26	330	転地返し	縄文早期住居跡1、土坑18、平安時代住居跡2、溝1	東Ⅷ
13	大井東台670-6	1988.1.14～2.27	971	倉庫	縄文中期住居跡9、集石1、土坑9、ピット20	東Ⅷ
14	大井東台649-16他	1988.1.27～2.24	735	住宅	縄文中期住居跡12、屋外埋糞1、集石土坑1、土坑8、ピット38	東Ⅸ
15	大井市沢577-1他	(1989.10.17～11.10)1989.11.17～1990.8.1	700	住宅	落とし穴1、木炭窯1、粘土採掘坑2、奈良・平安土器	東Ⅹ
16	大井713-4・5	(1990.8.1～4)	3,048	資材置場	縄文中期住居跡1、土坑1	東ⅩⅠ
17	大井621-1	(1990.9.5～12)1990.10.9～12.27	1,470	診療所	縄文中期住居跡8、土坑30、ピット94、柵列	東ⅩⅠ
18	大井529-1、588	(1991.3.11～5.20)1992.2.24～1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器礫群、石器集中17、落とし穴1、竪形製鉄炉7、木炭窯9、採掘坑4、土坑9、溝、柵列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井621	(1992.5.31～6.7)	4,489	特養新設	縄文中期住居跡8	町Ⅰ
20	大井649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居跡1	町Ⅲ
21	大井713-11・12	1992.3.7～11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町Ⅲ
22	大井651-6	(1994.5.10・11)1994.5.30～7.30	146	店舗	縄文中期住居跡6、土坑1	調13集
23	大井649-12・13	(1995.6.23～27)	285	個人住宅	縄文中期住居跡2	町Ⅳ
24	大井634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町Ⅳ
25	大井648-13・14	1995.10.22～12.16	296	個人住宅	縄文中期住居跡5、後期住居跡1、袋状土坑1、土坑10、ピット6	町Ⅳ
26	大井東台601-1・4・5	(1996.11.6～18)1997.1.14～3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居跡1、土坑3、落とし穴1、ピット24	調13集
27	大井600-1	(1997.2.19)1997.2.19～3.14	965	個人住宅	縄文中期住居跡1、炉穴1、土坑1、落とし穴1、ピット44	町Ⅵ
28	大井東台710-4	(1997.3.17～19)	231	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町Ⅵ
29	大井東台606-3	(1998.2.27～3.3)1998.3.4・5	500	個人住宅	縄文早期炉穴9、ピット2	町Ⅶ
30	大井640-1	(1998.11.4～12)	1,330	駐車場	縄文中期住居跡1、屋外炉、ピット	町Ⅷ
31	大井630-3、640-8	(1999.5.7～21)	186	道路築造	縄文中期住居跡2	町Ⅸ
32	大井603-1	(2000.8.4～9)	92	製茶工場	ピット3	町Ⅹ
33	大井662-1	(2000.8.4～8)2000.8.10～2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群4、礫群4、縄文中期住居跡30、後期住居跡4、掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他	町Ⅹ
34	大井東台624-2	(2002.3.12～25)2002.3.26～5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居跡5、土坑11、ピット16	町ⅩⅠ
35	大井東台649-31	(2001.9.6～8)	48	個人住宅	縄文中期住居跡1	町ⅩⅠ
36	大井東台614	(2001.10.15～11.2)	272	倉庫	ピット5、土器片	町ⅩⅠ
37	大井東台626-12	2001.10.12～11.5	100	個人住宅	縄文中期住居跡2、ピット1	町ⅩⅠ
38	大井東台614-3	(2002.1.28～2.15)	787	駐車場	縄文中期住居跡1、竪穴状遺構1、集石土坑2、土坑2、ピット2	町ⅩⅠ
39	大井626-8	(2002.6.3～20)	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町ⅩⅡ
40	大井661	(2003.10.6～11.4)	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、柵列	町ⅩⅡ
41	大井東台648-4	(2004.5.11～14)	182	個人住宅	縄文中期住居跡3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町ⅩⅡ
42	大井640-4	(2004.9.7～17)	515	教会	縄文中期住居跡2、落とし穴1、土坑3、ピット20	町ⅩⅡ
43	大井東台661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット4	町ⅩⅡ
44	大井東台664-15	2005.12.8～28	200	個人住宅	縄文中期住居跡1、後期住居跡2、土坑5、ピット9	町Ⅱ
45	大井東台710-1、711-1、717-1・2	(2006.5.31～9.1)2006.9.8～2007.3.7	7,971	東台小学校	縄文中期住居跡1、後期住居跡2、土坑5、ピット10	市3
46	大井東台626-11	(2006.9.4～6)2006.9.15～28	100	個人住宅	縄文中期住居跡2、集石2、土坑1	市3
47	大井東台602-4・5	(2006.9.19・20)	320	個人住宅	遺構・遺物なし	市3
48	大井東台649-21	(2007.1.16～26)	60	個人住宅	縄文中期住居跡3	市3
49	大井東台646、647-1、665	(2008.1.28～30、2.4～19)2008.1.31～2.1	174	東台小学校通学路築造	縄文時代中期～後期住居跡1 検出・5軒を確認、屋外埋糞1、粘土採掘坑1、土坑1、ピット1、溝6	市4
50	大井東台716-1の一部	2008.7.14～22	646	東台小学校アール	遺構・遺物なし	市6
51	大井東台648-2	(2009.3.10～18)2009.3.18～5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡6、土坑4、ピット14、縄文土器、石器	市6
52	大井東台626-8・14	2009.5.12～19	100	分譲住宅	縄文時代中期住居跡2 確認	市8
53	大井東台603-1	(2011.8.8～18)	1,251	工場	井戸1、縄文土器	市14
54	大井東台651-6・13・14	(2011.9.5～12)	309.3	店舗	縄文時代住居跡1、縄文土器	市14
55	大井東台694-2・3	(2011.9.20～22)	1,268	個人住宅	遺構遺物なし	市14
56	大井東台字市沢296-4	(2012.1.11)	59.6	分譲住宅	遺構遺物なし	市14
57	大井東台644-9の一部	(2013.4.5～10)	31	個人住宅	遺構・遺物なし	市18
58	大井東台625-1	(2014.7.3～8.4)	1,175.47	店舗	縄文時代住居跡15、土坑3、縄文土器、石器	未報告
59	大井東台633-6	(2014.7.15)	146	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告
60	大井597	(2015.7.7)	688	個人住宅	遺構・遺物なし	未報告

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、町Ⅰ：大井町史資料編1、調査会報告：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市内遺跡群

第25章 2013年度の調査について

2013（平成25）年度の埋蔵文化財調査は、54件の試掘調査と個人住宅建設に伴う本調査3件、民間開発に伴う本調査6件、公共工事に伴う本調査2件を行った。その他に52件の工事立会を行った。

開発の内訳は宅地造成や共同住宅、分譲住宅など相続に伴う開発が増える一方、介護や高齢者福祉施設等の開発も増えている。また、再開発では個人住宅の建替などが増えている。以下、本年度に行った調査のうち、時代別に主な遺構と遺物について概観する。

なお、民間開発に伴う本調査を実施した鶴ヶ岡外遺跡第6地点・ハケ遺跡第7地点・長宮遺跡第44地点は『市内遺跡群13』（2015.3）、駒林遺跡第28地点は『市内遺跡群14』（2015.3）、西ノ原遺跡第159地点・苗間東久保遺跡第32地点は『市内遺跡群16』（2016.3）、上福岡貝塚第2地点は『市内遺跡群17』（2016.3）において報告済であるが、本書ではそれらを含めて概観する。

【旧石器時代】 鶴ヶ岡外遺跡第6地点の本調査で、立川ロームのIV層～V層から、ナイフ形石器と配石遺構とみられる大型の台石、剥片等が出土した。しかしいずれも単独での出土であった。同時期の石器群が各々3基検出された第2地点、第5地点の隣接地であったが、今回は石器集中や礫群などは伴っていない。

【縄文時代】 鶴ヶ岡外遺跡第6地点で、縄文時代早期の炉穴15基を検出した。これまでの鶴ヶ岡外遺跡の調査でも同時期の炉穴群が調査されており、川越江川右岸に炉穴群が点在していた事を裏付ける資料である。

西ノ原遺跡第159地点の炉穴4基も、過去の調査から早期のものと考えられる。苗間東久保遺跡第32地点では炉穴14基、落とし穴1基、土坑11基が調査された。出土遺物は早期・前期・中期・後期のもので、遺構についても各時期に属するものと考えられよう。

松山遺跡第69・70・74地点で集石土坑を各1基検出した。遺物を伴っていないため時期の確定は出来なないが、駒林遺跡の中期における集石土坑の様相と類似している。

前期では関山期と黒浜期の集落跡の調査を行った。長宮遺跡第44地点では関山期の住居跡2軒のうち1軒を検出した。関山Ⅱ式の復元可能な土器が10個体近く出土した。炉には土器片を七重に重ね、土器沿炉と

でも形容するようなものである。滝地区にかつて存在し、新河岸川に流れ込んでいた旧河川の右岸沿いに、関山期の集落跡が位置していた様子が、より鮮明となった。なお、もう1軒については保存措置とした。

上福岡貝塚で黒浜期の住居跡10軒のうち7軒を検出した。そのうち3軒の貝層を伴う住居跡を調査し、多量の土器と貝類等の動物遺体が出土した。第1地点の調査では出土していない、関山式や諸磯C式の土器片も僅かに出土した。上福岡貝塚の縄文時代研究、また古入間湾における同期の貝塚研究においても、貴重な資料である。

中期では、西ノ原遺跡第150・156・158・159地点で阿玉台式、勝坂式、加曾利E式期の住居跡を確認、検出した。158地点は開発の変更により確認調査のみであった。第150・156・159地点では、隣接地の調査で検出した住居跡の続きを含め、13軒を調査した。第156地点では、阿玉台I b～Ⅱ式の炉体土器を有する住居跡を検出した。第150・159地点では中期環状集落の中央部に位置する住居跡を検出した。西ノ原遺跡全体の集落配置がより解明される資料である。ハケ遺跡第7地点では、勝坂式期から加曾利EⅡ式期の3軒の住居跡と集石土坑4基、土坑2基を調査した。3軒の住居跡は、台地が緩やかに北側に傾斜する北端部に位置し、中期の集落配置を知る上で貴重である。集石土坑については、j 31・33号住居跡廃棄後の窪地を利用して掘り込まれたものである。こうした集石土坑の状況は、西ノ原遺跡第128地点の複数の住居跡でも確認されていて、同様のものと考えられる。

西原遺跡では落とし穴1基が検出されたが、遺物がないため時期は不明である。しかし覆土層の観察から縄文時代の可能性が高い。

【古代】 松山遺跡第70・73・75・76・77地点で7世紀後半から9世紀初めの竪穴式住居跡を4軒検出した。

第73地点H45号住居跡出土須恵器杯の底部外面に、「中」とみられる墨書が確認された。また、第77地点H47号住居跡出土須恵器杯の底部にも、「中」の墨書が内外面にみられる。松山遺跡ではこれまでの調査で、いくつかの墨書土器が出土している。1992（平成4）年、松山遺跡第12次調査で井戸から出土した、8世紀後半の須恵器杯の底部に、「中」の墨書と

「×」とみられるヘラ書きがある。今年度出土した墨書土器も、遺物の年代や特徴から関連する資料である可能性が考えられる。第70・76地点H44号住居跡から出土した土錘4点は、福岡江川や赤沼の池（現水天宮公園）、または新河岸川などで漁に使用されたものであるか。

ハケ遺跡第7地点でも8～9世紀の住居跡4軒が調査され、H15号住居跡からは相模型の土師器坏等が出土した。武蔵野台北端の川崎遺跡からハケ遺跡、滝遺跡、権現山遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、福岡新田遺跡までの遺跡群は、古代の集落の変遷と繋がりを研究する上でも注目される地域である。

鶴ヶ岡外遺跡第6地点で検出した木炭窯は、出土した炭化材の放射性炭素年代測定で、11世紀前半から12世紀後半の歴年代が明らかとなった。これまで市内南部の東台遺跡、本村遺跡、西台遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡等で8世紀から15世紀前半までの木炭窯が検出されているが、市域の北部では初めての検出であった。古代から中近世まで、市内各所で木炭生産が行われていた可能性があり、今後の調査に期待したい。

【中世】駒林遺跡第28・31地点で検出した堀跡は、過去の調査で確認された堀跡の続きである可能性が高い。2002年～2004年の駒林区画整理事業に伴う調査、1997・2005年の調査、駒林遺跡1・23・26地点で確認、検出されている堀跡からみて、東西の区画が約220mになる。

ハケ遺跡第7地点の井戸からは馬1頭分の骨が出土した。同定の結果、13～18歳のメスと推定された。年代測定は行っていないが、中世以降の時期と考えられる。今後は動物遺体と井戸の時期について年代測定を実施して行きたい。

長宮遺跡第44地点の井戸からからは、応永年間（1394～1427）の板碑が出土した。近年、本村遺跡の他に長宮遺跡、神明後遺跡、長宮遺跡でも井戸に廃棄された板碑が多数確認されている。

苗間東久保遺跡第32地点では、溝の覆土層から12～13世紀の東海系陶器の口台付片口鉢が出土した。浄禅寺川を挟んで隣接する、浄禅寺跡遺跡第7・29地点から延びる堀の可能性があり、中世村落と浄禅寺を含めた検討、研究が今後の課題である。

【近世・近代】駒林遺跡第29地点の調査で、18世紀後

半から19世紀中頃までの遺物がやや多く出土した。

第29地点は駒林中世墳墓群にやや近い場所であるが、中世期の遺物は極僅かであった。駒林の旧村落の土地利用を知る上でも貴重である。

上福岡貝塚第2地点の調査で、火工廠跡の遺構や遺物が多数確認された。本調査ではなく、試掘調査であったが、水溜や水道の流し場、コンクリート基礎等多数が地下に埋蔵されていた。幅約11mの300m射撃場跡とみられる遺構からは、アルミ製の「極秘機密」等と記されたプレートが大量に出土した。また、火工廠の建物調査をふじみ野市文化財保護審議会等と協力して行った。建物5棟と防爆壁の調査報告は、『市内遺跡群17』で併せて報告済である。今後は火工廠に関する遺構や遺物の保存と保護も早急な課題である。

以上、今年度の調査成果についてまとめてみた。

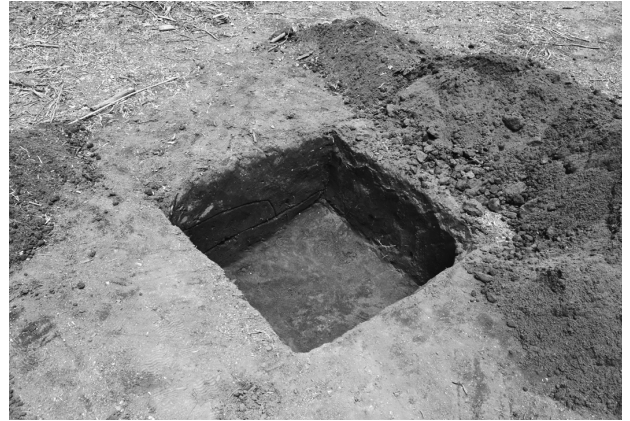
2013年度の埋蔵文化財調査は、ここ数年でみても件数・内容ともに、貴重な発見が多かった。その成果については、上福岡貝塚第2地点遺跡見学会の開催や、恒例となった大井郷土資料館、上福岡歴史民俗資料館での最新出土品展で公開を行っている。しかし、発掘された貴重な遺跡について、十分な活用がされているかと問われれば、否であろう。2011年以降、2015年度前半まで開発の件数は僅かに減少しているが、埋蔵文化財発掘調査件数は減っておらず、現地の調査と整理作業に追われている状況であった。しかし2015年度後半より埋蔵文化財包蔵地内での開発件数はやや減少傾向にあり、発掘調査も同様である。これらの状況から、埋蔵文化財発掘調査の転換点にいたら、ふじみ野市埋蔵文化財保護行政の在り方を検討、替えて行く時期にいるのかもしれない。文化庁の示す埋蔵文化財行政の業務「把握・周知」、「調整」、「保存（現状保存・記録保存）」、「活用」のうち最後の「活用」から「ちいきづくり・ひとづくり」をめざしていく必要がある。

文化庁・埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会『埋蔵文化財の保存と活用（報告）』—地域づくり・ひとづくりをめざす埋蔵文化財保護行政—平成19年2月1日

同 『適正な埋蔵文化財行政を担う体制等の構築について』—これからの埋蔵文化財行政にもとめられる体制—平成26年10月31日
ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第14集『市内遺跡群13』（2015.3）
ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第15集『市内遺跡群14』（2015.3）
ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第17集『市内遺跡群16』（2016.3）
ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第18集『市内遺跡群17』（2016.3）



鶴ヶ岡遺跡第 5 地点調査風景



鶴ヶ岡遺跡第 5 地点トレンチ



川崎遺跡第 40 地点調査風景



川崎遺跡第 40 地点調査風景



川崎遺跡第 40 地点トレンチ 3



川崎遺跡第 40 地点トレンチ 3



川崎遺跡第 40 地点トレンチ 3



川崎遺跡第 40 地点出土遺物



ハケ遺跡第13地点調査風景



ハケ遺跡第13地点トレンチ1



ハケ遺跡第14地点調査風景



ハケ遺跡第14地点トレンチ1



上福岡貝塚第2地点火工廠建物遠景



上福岡貝塚第2地点防爆壁(手前調査区)



上福岡貝塚第2地点A・B区道路



上福岡貝塚第2地点D区近景



上福岡貝塚第 2 地点 D 区近景



上福岡貝塚第 2 地点 E 区近景



上福岡貝塚第 2 地点 D 区土壌置換工事立会い



上福岡貝塚第 2 地点 E 区土壌置換工事立会い



上福岡貝塚第 2 地点 A 区全景



上福岡貝塚第 2 地点トレンチ 7 (9 号住居跡)



上福岡貝塚第 2 地点トレンチ 2 (10 号住居跡)



上福岡貝塚第 2 地点トレンチ 3 (11 号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ1(10号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ1(10号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ2(10号住居跡)



上福岡貝塚第40地点トレンチ3(11・12号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ8



上福岡貝塚第2地点トレンチ3



上福岡貝塚第2地点トレンチ4



上福岡貝塚第2地点トレンチ5



上福岡貝塚第2地点トレンチ2調査風景



上福岡貝塚第2地点調査風景



上福岡貝塚第2地点調査風景



上福岡貝塚第2地点トレンチ3水溜8



上福岡貝塚第2地点水溜8調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



権現山遺跡第24地点調査風景



権現山遺跡第24地点調査風景



権現山遺跡第24地点トレンチ



権現山遺跡第24地点出土遺物



滝遺跡第 22 地点調査風景



滝遺跡第 22 地点トレンチ



滝遺跡第 23 地点調査風景



滝遺跡第 23 地点調査風景



滝遺跡第 23 地点トレンチ 1



滝遺跡第 23 地点トレンチ 3



西原遺跡第 3 地点調査風景



西原遺跡第 3 地点調査風景